

HE
44

精神病者私宅監置ノ實況

内務省衛生局

国立保健医療科学院蔵書



10012184

HE
44

本篇ハ東京帝國大學醫科大學教授醫學博士
吳秀三氏が「精神病者私宅監置ノ實況及ビ其
統計的觀察」ト題シ最近發表サレタルモノナ
ルガ精神病者私宅監置ノ實況ヲ知ルノ資料
トシテ極メテ有益ノモノト認メラルルニヨ
リ請フテ印刷ニ附スルコトトセリ

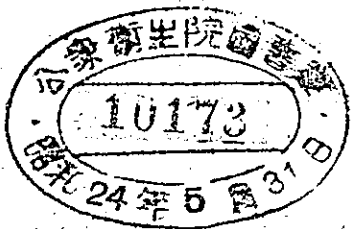
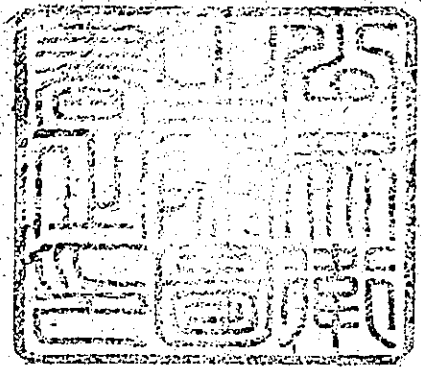
大正七年七月

保健衛生調査室

HE

44

HE
44



自序

精神病者ハ自カラ知ラズ自カラ救フ能ハザル疾患ニ罹リ、其境遇ニ於テ最愍ムベキモノタルノ一方ニ於テ、社會ノ秩序ヲ危クシ公衆ノ安寧ヲ破ラントスル危険ナル證狀ヲ呈スルモノナレバ、一面之ヲ救濟シ一面之ヲ保護スルハ、吾人ノ責任ニシテ又吾人ノ義務ナリ。而カモ斯ノ病タル決シテ不治ノモノニアラス。之ヲ恰好ノ時機ニ於テ入院セシメ、適當ノ治療ヲ加フルナラバ、其治癒スベキモノ、尠カラザルトハ、他種疾患ニ比シテ何等逕庭ナキモノトス。之ヲ以テ歐米ニ於ケル諸文明國ニアリテハ國家又ハ公共團體トシテ之ニ對スル制度施設ヲ整へ、多數ノ病者ヲ收容シ、以テ之ニ十分ナル看護救療ヲ加へ博愛慈惠ノ道ヲ盡スト與ニ、社會ノ秩序ヲ保チ、公衆ノ安寧ヲ謀ルニ心力ヲ傾注スルナリ。我邦ニ於テハ既ニ精神病者監護法ノ施行アリテ病者ノ法律的地位ハ擁護セラルト雖モ、實學的見地ニ立チテ病者ノ實際ニ於ケル救治方ヲ觀察スルトキニハ頗ル遺憾ニ堪ヘザルモノ多々之アルヲ認ム。蓋シ方今我邦ニ現在スル精神病者ノ數ハ凡ソ十四五萬ノ多數ニ及ブベキモ、之ガ治療保護ニ當ルベキ官公立精神病院ハ寔ニ少數ニシテ、其收容スル患者數ハ、之ヲ其全數ニ比ス

レバ、實ニ九牛ノ一毛タルノ觀アリ。而シテ一面是レガ代補ヲナシツ、アル私立精神病院ノ收容率モ亦僅少ニシテ、此官公私三者ヲ合スルモ猶ホ漸ク約五千人ヲ收容シ得ルニ過ギズ。サレバ殘餘約十三四萬人ノ多數ナル病者ハ、監護法ノ定ムル所ニヨリ之ヲ私宅監置室ニ監置シ、或ハ神社佛閣ニ於ケル祈禱禁厭灌漑等ニヨリ、或ハ民間流布ノ療方ヲ以テ處置セラル、ナリ。余ハ東京帝國大學醫科大學精神病學教室主任トシテ、此等病院以外ニ於ケル處置治療ノ果シテ能ク病者保護ノ方法ヲ得ルヤ否ヤ、醫學的療養ノ目的ヲ達シ居ルヤ否ヤヲ知ラント欲シ、明治四十三年ヨリ大正五年ニ至ル間、暑中休暇ノ都度、教室勤務ノ助手(十五人)ヲ一府十四縣ニ派遣シ、是ガ實地狀況、殊ニ私宅監置ノ實況ニ就キ調査セシムル所アリタリ。本著ハ即チ之ガ報告ヲ綜括シテ記述セシモノニシテ、冊中多數ノ實例ニ添加セル幾多ノ寫眞圖ハ慘澹タル監置室ノ光景、不完全ナル民間療法ノ實景ヲ眞直ニ語ツテ、讀者ヲシテ思ヒ半バニ過ギシムルモノアラン。病院以外ニ於ケル處置ノ甚悲慘ニシテ、人ヲシテ傷心ニ堪ヘザラシムルモノアル所以ハ、一ニ病者ノ保護治療ニ關スル法律竝ビニ施設ノ大ナル缺陷ニ原因スルモノニシテ、博愛慈善ヲ旨トスル人道ノ上ヨリ之ヲ觀ルモ、將又、公安維持ノ點ヨリ之ヲ論ズルモ、之ガ制度ヲ改善シ、設備ヲ整頓スルハ

刻下緊急ノ要務ト謂フベシ。況ンヤ我邦精神病者ノ數ガ年ヲ逐フテ増加シテ止マラザルハ、諸統計ニ徴シテ明白ナル事實ト認ムベキニ於テチャ、又況ンヤ冊中所掲ノ統計表ノ指示スルガ如ク私宅被監置者ノ多數ハ「無辜ノ窮民ニシテ醫藥ノ給セラレザルモノ」ナルニ於テチャ。幸ニシテ最近ノ國情ハ此問題ノ解決ニ向ツテ其端緒ヲ開キ始メタルモノ、如ク、政府當局者モ既ニ精神病者ノ保護救濟ノ改善ニ關シ畫策シツ、アル所アリト聞ク。是レ吾人ガ衷心ヨリ欣ビ翹首シテ其具體的實現ヲ期待スル所ノモノニシテ、吾人ハ政府ガ速カニ進ンデ國立精神病院ヲ建設シ、且ツ全國ニ向ツテ公私立精神病院ノ設立ヲ獎勵シ、更ニ精神病者監護法ノ改正ヲ施サンコトヲ希望シテ已マザルナリ。然レドモ精神病者ノ保護救濟ハ其關係スル範圍ノ廣クシテ社會各方面ニ亙ル一大問題ナレバ、其解決ハ當ニ之ヲ官廳ノ力ニ俟ツノミナラズ、マタ斯病ト直接間接ニ連繫アル事業ニ從フモノ、熱心ナル協心戮力ニ依ラザルベカラズ。此ノ如クシテ初メテ、ヨク之ヲ大成シ得ベキモノナリト信ズ。吾人ガ茲ニ此著ヲ公ケニシ、殆ンド見ルニ堪ヘザル程悲惨ナル光景ヲモ寫シ出シテ諸君子ノ清鑒ヲ汚ス所以ノモノモ亦此意ニ他ナラズ。吾人ハ博愛ナル諸君子ガ人生ニ於ケル最不幸ナル病者ノ爲メニ同情ヲ垂レ、制度施設ノ改善速成ニ對ツテ盡力アランコトヲ切

望シテ已マザルモノナリ。之ヲ序ト爲ス。

大正七年六月二十五日

醫學博士 吳 秀 三 識

目次

第一章	緒論	一
第二章	精神病者私宅監置ノ實況	六
第一節	總說	六
第二節	精神病者私宅監置ノ實例(百五例、寫真六十六葉、附圖七十個)	七
第三節	未監置精神病者ノ家庭ニ於ケル實況(十例)	七
第四章	民間療方ノ實況	七
第一節	總說	七
第二節	神社佛閣ニ於ケル處置、水治方及ビ溫泉場ノ實例(高雄山、中山、 <small>オラキ</small> 原木、龍爪山、大岩山、定義溫泉(寫真十四葉、附圖二個))	九
第三節	精神病ノ民間藥及ビ迷信藥	一〇
第四節	精神病者運輸方ノ實況(寫真五葉)	一〇
第五章	私宅監置ノ統計的觀察(統計十五表)	一〇
第一節	總說	一〇
第二節	男女	一〇
第三節	年齡	一〇
目次		五

目次

第四節	資産	104
第五節	職業	104
第六節	監護義務者	104
第七節	監置ノ理由	104
第八節	監置ノ經過	104
第九節	監置室	104
第十節	被監置者ノ狀態	104
第十一節	家人ノ待遇	104
第十二節	醫 療	104
第十三節	精神病ノ種類	104
第十四節	警察官ノ視察臨檢回数	104
第六章	批 判	104
第一節	私宅監置ニ對スル批判	104
第二節	公立ノ監置室ニ對スル批判	104
第三節	精神病者監護法ニ對スル批判	104
第四節	民間療方ニ對スル批判	104
第七章	意 見	104
第八章	概括及ビ結論	104

精神病者私宅監置ノ實況及ビ其統計的觀察

附。民間療方ノ實況等(寫真八十五葉 附圖七十二個 統計十五表)

東京帝國大學醫科大學精神病學教室

醫學博士 吳 秀 三
醫學士 檜 田 五 郎

第一章 緒 論

精神病者ノ處置ハ洋ノ東西ヲ問ハズ、往古ヨリ近代ニ至ルマデ冷酷ニシテ殊ニ西洋ニ於テソノ甚シキヲ見タリ。西洋ニ於テモ嘗テ精神病ヲ以テ業報トシ又ハ妖魔ノ所爲トナシ、斯ル迷信ヨリシテ精神病者ガ社會一般ヨリ甚キ虐待ヲ受ケ、政府有司モ之ニ誤ラレテ精神病者ヲ犯罪人ト同ク監獄ニ投ジ、之ヲシテ不幸遭遇ノ爲ニ暗窓ノ下ニ呻吟セシメシコト數百年。千七百九十二年佛ノビネル氏ガビセルトル病院ニ於テ鐵鎖撤廢ニ著手シ、次デ千八百三十九年英ノコノリト氏ガハンツェル病院ニ於テ強制器具ノ使用ヲ禁ゼシ以來、不拘束主義(Non-Restraint-System)ハ漸次ニ傳播シテ遂ニ完全ナル發達ヲ遂ゲ、現今歐米諸國ニ於テハ多數ノ完備セル公私精神病院アリテ無隔離療方・村落療方・家族療方等ノ實施セラルルニ至リタリ。

我邦ニ於テハ、古クヨリ精神病ヲ以テ一ノ疾病ト看做シタレバ、精神病者ニ對スル處置モ歐洲ニ行ハレタルガ如キ殘忍

暴虐ナルモノ無カリシト雖モ亦甚冷疎タルヲ免レザリキ。古來我邦ニハ精神病者ヲ收容スベキ公共施設ノ備ハリタルコトナク、病者ノ治療看護ハ皆私人ノ欲スル所ニ從ツテ之ヲ行ヒ、醫師ノ治療・僧侶神官ノ祈禱禁厭・水治方・民間流布ノ療方其他各個任意ノ處置等アリタリ。靜穩ナル患者ハ之ヲ放置シテ、偶々看護監督セザルモアリ、躁暴ナル患者又ハ自他ニ對シ危險ナル證狀ノアル患者ハ桎梏鎖鑰ニヨリテ強制セラレタリ。徳川時代ニ至リテハ寛政以降、永井・武田・石丸・本多・奈良林等ノ諸醫家ハ病院又ハ其ニ類似ノ設備ヲナシ以テ患者ノ治療收容ニ努メタリキト雖モ、世間ノ大勢ハ猶舊套ヲ墨守シテ之ニ満足スルモノ、如ク。明治年間ニ入りテモ患者ノ待遇ハ甚疎略ニシテ、明治十二年今ノ東京府巢鴨病院ノ前身タル東京府癲狂院ノ創立ヲ見シ當時ニ於テテスラ、治療看護上ノ處置ハ甚不完全ニシテ患者ニ三食ヲ給スルヲバソノ主務トセルモノ、如ク、之ヲ壓制シ之ニ桎梏ヲ施シ、極端ニ云ヘバ動物ノ飼養ニモ似タルモノアリタリト云フ。其後中井院長ノ代トナルニ及ビテ明治十四年頃ニハ不拘束療方開始ノ形迹ヲ認メ。明治二十年神教授ノ東京府巢鴨病院醫長トナルニ及ビ、患者ノ待遇ハ治療方ノ變化ト共ニ大ニ開放トナリタルガ、然カモ今日ノ見地ヨリスレバ尙多少拘束ナルモノアルヲ見タリ。之ヲ要スルニ、明治二十年前後ニ於ケル精神病者ニ對スル處置ハ、公立病院及ビ私立病院ニ於テモ、明治初年ニ比シテ大ニ改良發達シタリト雖モ民間ニ於ケル處置ハ依然頑陋醜薄ニシテ舊態ヲ脱セザリシノミナラズ、家庭ニ於ケル軋軋紛爭ハ間々名ヲ精神病ニ藉リテ不法監禁ヲ行ヒ、被監禁者ノ權利ヲ蹂躪シ、或ハ資産ヲ偷取スル如キモノモ少カラザリシ如ク。彼ノ明治二十五年ニ於ケル相馬事件ノ如キハ不法監禁ニ關スル疑獄ノ最著明ナルモノトス。蓋當時マデ精神病者保護ニ關スル行政廳ノ命令ハ、東京府ニ於テハ明治十一年以降數次布達セラレ、他府縣ニ於テモ之アリシモノ、如クナレドモ、之ニ關スル一定ノ法律ハ未ダ之アラザリシナリ。相馬事件以來精神病者保護ニ關スル法律制定ノ必要屢々官民ノ間ニ唱ヘラレ、遂ニ明治三十三年三月九日法律第三十八號ヲ以テ精神病者監護法ノ發布セラレ、ヲ見ルニ至リ、其法律ハ同年七月一日ヨリ施行セラレ、コト、ナレリ。今此法律ノ内容ヲ摘録スレバ、精神病者ノ監護ハ患者ノ後見人・配偶者又ハ義務者・親族又ハ戶主ヲシテ其義務ヲ負ハシメ、其等ノ人ハ行政廳ノ許可ヲ得テ精神病者ヲ監置スルヲ得ルモ此以外ノ者ハ之ヲ監置スルコトヲ得ザルコトヲ定メ（費用ハ被監護者又ハ其扶養義務

者ノ負擔トス）、義務者無ク又ハ義務者アルモ其義務ヲ履行スル能ハザルトキハ患者ノ住所又ハ所在地ノ市區町村長ニ於テ監護ノ義務ヲ負フモノト定メ（費用ノ支辨又ハ追認ハ行政廳ノ准用）、又行政廳ハ監置ヲ許可シ、監護義務者ヲ改易シ、又監護ノ方法及ビ場所ノ變更ヲ命ズルモノナルコトヲ規定シ、猶是等ニ關シ不法不正ノ行為アルトキ之ニ對スル罰則ヲ規定シタリ。猶又、此法律ハ私宅監置室・公私立精神病院及ビ公私立ノ精神病室ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニアラザレバ之ヲ使用スル能ハザルコトヲ規定シ、其病室ノ構造設備及ビ管理方法ニ關シテハ別ニ之ヲ定メタリ。尋ギテ同三十三年六月二十九日勅令第二百八十三號ヲ以テ、市區町村長ニ於テ精神病者ヲ監置スル場合ニ於ケル規定ヲ公布シ、此場合地方長官ノ認可ヲ受クベキコト（急迫ノ場合ニハ、其認可ナキモ警察官署ノ同意ヲ得レバ三十日間、其同意ヲ得ザルモ七日以内ハ假ニ監置シ得ルコト）等ヲ規定セリ（此事項ハ同三十四年三月東京府ニ於テハ警視廳訓令ヲ以テ、警視總監ノ認可ヲ受クルニ及バザルコト、ナレリ）。猶同三十三年六月二十八日ニハ内務省ニ於テ省令ヲ以テ精神病者監護法施行規則ヲ發布シ、監護ニ關スル種々ノ手續ヲ規定セルガ、其第八條ニハ私宅監置室ニ關スル規則ヲ擧ゲ、精神病者ノ資産又ハ扶養義務者ノ程度ニ應ジ相當ノ構造設備ヲナシ及ビ之ヲ管理スルコトヲ要スト規定セリ。本論文ノ主題タル私宅監置ト云フ名稱モ、前掲ノ如ク此法律ノ條項中ニ現ハレタルモノニシテ、監置ナル語ノ疑義ニ關シテハ後ニ（第六章第二節）論ズル所アラントスルモ、之ヲ概言スレバ、私宅監置トハ、精神病者監護法ニ基キ、私人ガ行政廳ノ許可ヲ得テ、私宅ニ一室ヲ設ケ、精神病者ヲ監禁スルヲ謂フナリ。此法律ニヨリ精神病者ノ法律上ノ保護ハ初メテ確立シ、私宅ニ於ケル精神病者ノ待遇モ從前全ク私人ニ放任セラレシ時代ニ比スレバ大ニ面目ヲ改メタリト云フベク、我邦ノ精神病者ノ保護ハ之ニヨリテ一大進歩ヲナシタリト謂ハザルベカラズ。然ルニ之ヲ他方ヨリ觀察スレバ、此法律ノ主旨ガ精神病者ノ法律上ノ保護殊ニ其不法ナル監禁等ヲ禁制スルニ偏局シテ、更ニ精神病者ノ待遇ヲ衛生上又ハ社會上方面ヨリ觀察シテ、之ヲ擁護セントスル旨趣ヲ忽シタルハ遺憾ト云フベシ。

我邦ニ於ケル對精神病者處置ハ幾多ノ變遷ヲ經テ以テ目下ノ狀況ヲ呈スルニ至レリ。今最近ニ於ケル其一般狀況、就

中、病者ノ數、病院ノ設備、病者ノ處置等ニ就テ之ヲ觀察スルニ、病者ノ數ハ逐年遞昇的ニ増加スル傾向アリ。明治三十八年乃至大正四年ノ統計ヲ見ルニ道府縣ノ精神病者ノ總數ハ明治三十八年ニハ二萬三千九百三十一人ナリシモ、同四十二年ニハ二萬八千二百八十五人トナリ(一・二八倍)、大正四年ニハ四萬九千九百二十人トナレリ(一・七五倍)。是即、十二年間ニ一倍半以上ニ増率セルモノナリ。此間ニ於ケル精神病者ト人口トノ百分比ヲ見ルニ〇・〇五〇(明治三十八年)ヨリ〇・〇七五(大正四年)ニ上リタルナリ。之ヲ吾人ガ歐米其他各國ノ諸統計ニ徵シ、其ガ平均數〇・二五三四%(人口三百九十五ニ對シ精神病者一ノ割合)ヲ獲タルモノト比較シ、或ハ人口三百乃至五百ニ對シ一人ノ精神病者存スト稱セラルルニ對照スレバ誠ニ少數ト謂ハザルベカラズ。是恐ラク一ニ我邦統計ガ粗漏ナルノ致ス所ニシテ其實際ノ數ハ之ヲ吾人ノ統計ヨリ概算スレバ、道府縣ノミニテモ少クモ十四五萬人ヲ超ヘザルベカラズ。既ニ昨大正六年內務省保健衛生調査會ハ道府縣ニ就キ精神病者及ビ其疑似者ヲ調査シ、第一回ノ統計ニ於テ六萬四千九百四十一人(同年六月三十日現在)ヲ擧ゲ得タリ。今此數ヲ以テ大正四年統計ノ指示スル數ニ比較スレバ、實ニ二萬三千八百八十人即チ其過半数ノ増加ヲ見ルモノニシテ、是ニ由リテモ調査ノ愈々精密ナルニ從ヒ、益々多數ノ病者ヲ發見シ得ルコトヲ知ルニ足レリ。

翻テ一方我邦ニ於ケル精神病院或ハ精神病室ノ設備ノ如何ヲ見ルニ誠ニ寥落トシテ曉天ノ殘星タルノ觀ナクンバアラズ。今之ガ設備ヲ一瞥スルニ、公立精神病院、官公立病院ノ精神病室、公立精神病者收容所及ビ私立精神病院、四者ヲ擧ゲ得ルモ、其病牀數ハ何レモ僅少ナルモノトス。左ニ少シク之ヲ述ブレバ、公立精神病院トシテ眞ニ精神病者ノミヲ收容スル規模ノ稍々大ナルモノハ纔ニ一ノ東京府巢鴨病院アルノミニシテ、其病牀數ハ自費公費ヲ合シテ四百四十六牀トス。區立函館精神病舍モ亦專ラ精神病者ヲ收容スト雖モ三十四牀ヲ有スルニ過ギザルナリ。次ニ官公立病院ノ精神病室ヲ擧グレバ帝國大學醫科大學、府立醫科大學、醫學專門學校ノ附屬醫院ノ精神病室、縣、區、町立病院ノ精神病室及ビ植民地ナル朝鮮總督府醫院ノ精神病室以上合計十八個所ノ病牀數僅々四百牀未滿ニシテ、此他猶、監獄及ビ陸海軍所屬ノ病院ニ於ケル精神病室ノ在ルアリト雖モ其患者收容力ハ寔ニ微弱ナルモノトス。次ニ公立精神病者收容所トシテ擧ゲ得ベキモノ、大部分ハ行路病者收容所內ノ精神病室ニシテ道府縣ニ約十五箇所ヲ數ヘ、更ニ植民地ニテハ大邱(朝鮮)

大連ノ慈惠醫院ヲ擧ゲ得ベク猶一ノ縣ニ於テハ傳染病隔離病舍內ニ精神病者ノ收容セラレラル所モアリ。是等ノ病牀數ハ約二百牀ナリ。即知ル、現時我邦ニ於テ精神病者ヲ收容シ得ル公共機關ノ總病牀數ハ僅ニ約一千牀ニ過ギザルコトヲ。而シテ此官公立施設ノ不備ハ刻下ノ狀況ニ於テハ一方纔ニ私立精神病院ニ依リテ之ガ代補ヲ行ヒ、精神病學上ノ治療ヲ營ムモノトス。今私立精神病院ノ數ヲ全國ニ求ムルニ凡、三十七院アリテ其病牀數ハ約四千牀ナリ。即、官公私三者ノ施設ノ有スル總病牀數ハ合計約五千牀ニシテ、是トテモ自費患者牀ノ多數ヲ加算シタルナリ。若シ夫レ施療患者ノミニ關シテソノ數ヲ計算スレバ此少數ノ官公立病院又ハ病室ニ收容セラレタル施療患者ノ他ニ、市區町村長ガ監護義務者トナリテ公私病院ニ委託セル所謂委託患者及ビ更ニ同長ノ監護扶養スル私宅監置患者ヲ加フルモ、尙全國ニ於テ約二千人ヲ數ヘ得ルノミナリ。是ニ由テ之ヲ觀レバ全國十四五萬ノ精神病者ニ對シテ吾人ノ有スル收容機關ノ收容率ハ約三・六%乃至三・三%ニシテ其施設ハ實ニ甚シク不備ナリト謂ハザルベカラズ。

此ノ如クニシテ我邦ニ於ケル最大多數ノ精神病者十三四萬五千人ハ公私ノ精神病院ニ收容セララル、コトナキニ彼等ハ果シテ如何ナル處置ヲ以テ遇セララル、カ。之ヲ觀察スルニ其處置ハ大別シテ之ヲ三種トナスヲ得ベシ。第一種ハ私宅又ハ一般病院ニ在リテ醫療ヲ受クルモノ、第二種ハ私宅監置室ニ在ルモノ及ビ私宅ニ起臥スルモ監置セラレズ而モ醫療ヲ加ヘラザルモノ、第三種ハ神社佛閣ニ於テ祈禱・禁厭・水治方等ノ民間療方ヲ受クルモノトス。此內第一種ハ富裕者又ハ恒産アルモノニシテ、國民ノ少數ニ見ル所ナリ。第二種第三種ハ民間最多ク行ハル、所ニシテ、資產中等以下ノモノニ多ク、私宅監置ト民間療方ト此二ツハ實ニ我邦ニ於ケル精神病者ニ對スル現代ノ代表的處置ナリト謂フベシ。

願フニ國民ハ國家ノ基礎ナリ。國家ハ須ク民心ノ嚮フ所ヲ知リ、缺陷ノアル所ヲ察シ、之ガ爲ニ法ヲ立テ、又之ガ爲ニ備ラ施サザルベカラズ。國家ノ精神病ニ對スル立法・施設ノ如キモ亦然ルベキモノナラズヤ。吾人ハ須ラク精神病者ニ對スル國內ノ實情ヲ知リ其現況ヲ彈究シ、法ノ適否・施設ノ不完ヲ省察シ、時代ノ進歩ト共ニ之ガ改善ヲ促シ進歩ヲ計ルベキモノナリ。之ヲ將來ニ計畫セントスルニ當リテハ必ズ之ガ基礎ヲ現代ノ實狀ニ求メザルベカラズ。是ニ於テ吾人ハ我邦精神病者ノ處置ハ公私病院ニ於テハ醫師ノ治療ト行政廳ノ監督トニ由ツテ稍々其緒ニ就クヲ得タリト雖モ私宅

監置及ビ民間療方ノ如キハ果シテ能ク其目的ニ適シタル方法ニ由リテ指導サレ居ルヤ、之ニヨリテ能ク其道ヲ盡シ居ルヤ、國家行政廳ノ監督モ能ク行届キタリヤ否ヤ、之ヲ調査スルコト亦當面ノ急務ナリト信ジ、余(吳)ハ東京帝國大學醫科大學精神病學教室主任トシテ、明治四十三年以降夏期休暇ノ都度教室勤務ノ助手・副手一名乃至數名ヲ各府縣ニ出張セシメ、私宅監置ノ實地ノ旁ラ亦、民間療方及ビ未監置精神病者ニ就キテ其狀況ヲ視察セシムル所アリ。而シテ大正五年マデニ一府十四縣ノ視察調査ヲ遂ゲ得タリ。其實況ノ一少部分ニ關シテハ既ニ東京醫學會創立二十五年祝賀論文第二輯ナル「我邦ニ於ケル精神病ニ關スル最近ノ施設」中ニ記載セル所アリシモ、今茲ニ其全部ヲ一括シテ之ヲ報告セント欲ス。

第二章 精神病患者私宅監置ノ實況

第一節 總 說

東京帝國大學醫科大學精神病學教室ガ私宅監置ニ就キ實地調査ヲ行ヒシ年次・府縣名・監置室數及ビ其視察者ハ左記ノ如シ。

年次	府縣名	視察監置室數	視察者	年次	府縣名	視察監置室數	視察者
明治四十三年	東京府	一五	醫學博士 石川 貞吉	明治四十五年	福島縣	二七	醫學士 墨澤 真臣
同 年	群馬縣	一〇	醫學士 齋藤 玉男	同 年	岐阜縣	二〇	同 杉江 董
同 年	神奈川縣	一四	同 橋 健行	同 年	茨城縣	八一	同 杉江 董
同 年	廣島縣	一〇	同 杉江 董	同 年	千葉縣	二二	文醫學士 中村 隆治
同 四十四年	山梨縣	一三	同 齋藤 玉男	同 年	青森縣	二〇	醫學士 下田 光造
同 年	長野縣	二六	同 氏家 信	同 年	富山縣	三一	同 樫田 五郎
同 年	静岡縣	一六	同 水津 信治	同 年	三重縣	四四	同 谷口 本事
同 年	埼玉縣	一五	醫學博士 木村 男也	同 年	合計六個年	三六四室	一五人

即 視察ヲ行ヒシ年ハ明治四十三年乃至大正五年ニシテ大正四年ヲ除ク六箇年トス。視察ノ時期ハ毎年七月八月盛夏ノ候ニ當リ、視察ノ日數ハ數日乃至十數日ナリ。視察者ノ延人員ハ十五名ニシテ、視察セシ府縣數ハ一府十四縣、即全國道府縣ノ約三分ノ一ニ該當ス。視察セシ私宅監置室總數ハ三百六十四室ニシテ其内十四室(埼玉縣一、千葉縣一、茨城縣一、群馬縣一、静岡縣一、山梨縣四、富山縣五)ハ公立(市立又ハ町立)ニ係リ、其他ノ三百五十室ハ總テ私人ノ建築セシモノトス。而テ視察セシ監置患者總數ハ三百六十一人ナリ。(室數ト人數ト一致セザル理由ハ第五章第一節ニ之ヲ述ブベシ)

此外、未監置患者十五人(埼玉縣九、静岡縣一、山梨縣一、富山縣四)ヲ觀察セリ。

視察ノ方法形式ニ關シテハ、余(吳)ハ視察者ニ特定ノ調査事項ヲ命ズルト、モニ監置室ノ構造・家人ノ被監置者ニ對スル待遇ヲ主トシテ調査スベキヲ命ジ、其他ノ事項ニ至リテハ一ニ視察者ノ觀察ニ任ジ、時日ニ餘裕アルニ當リテハ民間療方等ヲ調査スベキヲ命ゼリ。然レドモ視察者ノ提出セル視察復命報告書ノ書式或ハ觀察方面ハ各個意見ノ存スル所ニ從ツテ一様ナラザルハ亦已ムヲ得ザルコトナリ。

次ニ諸報告書中ヨリ主トシテ私宅監置ノ實況記事ニ寫真及ビ附圖ノ添加シアルモノヲ選抜シ、實例百五例ヲ左ノ五等ニ分類シテ順次之ヲ掲載セン。

- 甲 佳良ナルモノ 八 例
- 乙 普通ナルモノ 二十七例
- 丙 不良ナルモノ 三十三例
- 丁 甚不良ナルモノ 二十四例
- 戊 市區町村長ノ監護扶養又ハ補助ヲ受クルモノ 十二例

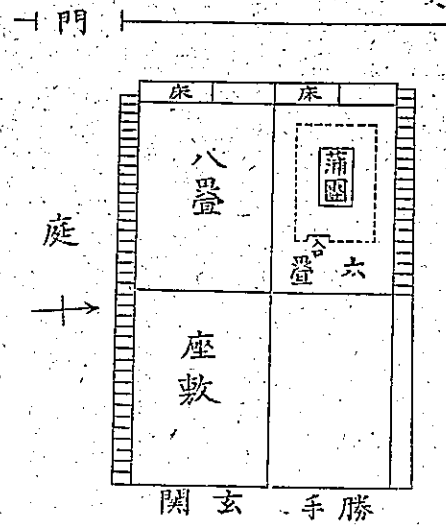
第二節 精神病患者私宅監置ノ實例 (百五例、寫真六十六葉、附圖七十個)

甲 佳良ナルモノ

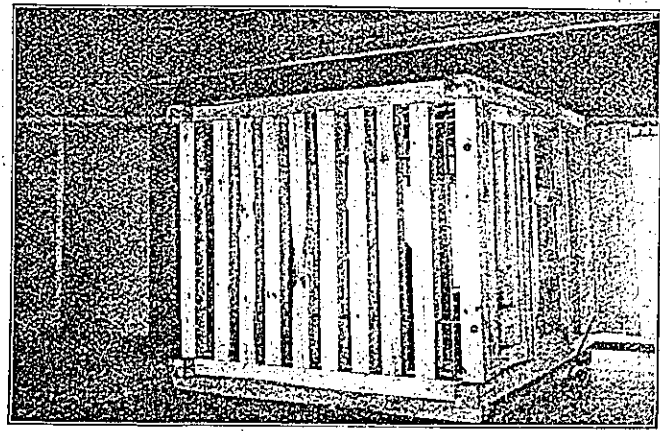
第一例 ○○縣○○郡○○村三〇十番地。平民、戸主、農、平〇〇重。慶應三年一月生四十五歳。

監護義務者、妻、平○と○。資産及び生活程度、富有ナル資産ヲ有ス。監置ノ時日、明治四十三年一月。監置ノ理由、明治四十一年十二月發病シ、瀧ニ飲酒シテ戶外ヲ徘徊シ、往々外泊シ、氣ニ入ラヌコトアレバ怒リテ器物ヲ放棄セシコトアルヲ以テ之ヲ監置セリ。監置ノ場所、木宅客間ニ隣レル北座敷八疊間ニ廣サ一坪、高サ六尺ノ監置室ヲ造レリ。

第一例 附圖(第一號)



第一例 寫真(第一號)



監置室ハ西、即、床ノ間ニ面シタル側ヲ板圍トナシ、他ノ三側ヲ二寸角材ニテ木柵トシ、柵ノ上部及下部ニ鐵棒ヲ横ニ通シ、頗ル堅固ナルモノナリ。本宅ハ南北兩側開キニシテ、椽アルヲ以テ採光換氣佳良ニシテ室内モ亦清潔ナリ、寒暑及ビ風雨ニ對スル設備十分ナリ。便所ノ設備ナク、便器ヲ與フ。洗面

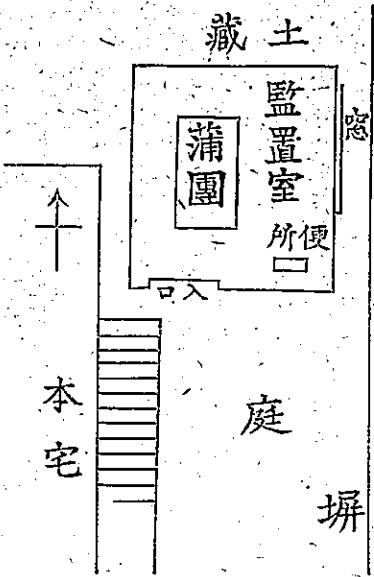
所ノ設備ナシ。家人ノ待遇、妻子看護ノ勞ヲ執リ、毎朝洗面セシメ、室内ヲ掃除シ、膳立ニテ食事セシメ、三日乃至四日毎ニ入浴セシメ、二日毎ニ散步セシム。衣服モ亦清潔ナリ。病狀、榮養良シ。醫藥、醫師○○○毎月一回來診。服藥セズ。警察官ノ視察、巡查ハ二月一回巡視ス。構造、設備及ビ採光、換氣等佳良ニシテ待遇モ亦十分ナリ。視察例中最佳ナルモノトス。

第二例

監護義務者、子、○池○七○。資産及び生活程度、田地ヲ有シ、普通ノ生活ヲ營ム。監置ノ時日、明治三十九年二月。監置ノ理由、明治三十八年頃ヨリ近村ヲ徘徊シ、或ハ○○市マテ徒歩旅行ヲ企テ、途中無錢宿泊セシコトアリ。或ハ神ニナリタリテ村内ノ家々ヲ訪問セシコトアリシ爲之ヲ監置セリ。監置ノ場所、本宅ノ北端ニ接近セル土藏ヲ利用セルモノナリ。

監置室ハ土藏内ニ在リ、間口一間、奥行一間半、高サ約九尺ニテ牀下高サ二尺餘ナリ。土藏内ニハ燈ヲ敷キ蒲團ノ設アリ。入口ハ、土藏ノ入口其儘ラシテ高サ一間、幅三尺ニシテ、下半部板張ナルモ上半部ハ金網張ナリ。土藏ハ南向キニシテ此入口及ビ東側ニ半間四方ノ窓ヲ造リテ採光、換氣ノ用ニ供セリ。故ニ室内比較的明ルク、風通シモ亦ヨシ。便所ハ東南隅ニ在リ、洗面所ノ設ナシ。家人ノ待遇、患者ハ毎日洗面セザルモ、時折リ水ヲ請求シテ洗フコトアリ。食事ハ毎日四回ニシテ膳立シテ之ヲ與フ、瀝ニ近隣ヲ訪問スル虞アル故運動ニ出ダスコトナシ。入浴ハ患者拒ムヲ以テ之ヲ爲サズ、月一回位拭湯ス、室内ノ掃除ハ毎日之ヲ行ハザルモ、患者自身モ掃除シ、家人モ亦掃除シ

第二例 附圖(第二號)



與フ。室内ハ比較的清潔ナリ。病狀、患者榮養佳良ナリ。醫藥、主治醫無ク、服藥セズ。警察官ノ視察、受持巡查ハ毎月二回巡視ス。土藏ヲ其儘利用セル監置室ナルヲ以テ堅牢ナリ。南向ナルト東側ニ窓ヲ設ケタルトヨリ採光、換氣比較的良ク、風雨ニ對スル設備アリ。家人ノ待遇モ亦普通ナリ。

第三例

○○縣○○郡○○町○○字○○原宿。宿屋業、西○稻○助。二十歲。

監置室ハ別ニ小屋ヲ新築シタルモノニシテ理想ニ近キモノナリ。唯其土地ノ濕潤ナルト牀ノ低キトハ缺點ナルベシ。天井高ク、換氣、採光稍佳、室内亦廣シ。病狀、緊張病ニシテ糞便ヲ弄シテ不潔行爲ヲナスコト甚ク、爲ニ室内モ汚レ果テタリ。衣服、寢具、蚊帳等ハ何程與フルモ盡ク之ヲ扯裂破壞ス。家人ノ待遇、生母親シク看護ニ從事シ夏季ニハ監置室ノ窓ヲ盡ク蚊帳ノ布片ニテ外ヨリ圍ミテ蟲類ノ侵入ヲ防キ、猶患者ノ之ヲ破壞シ得ザル様、晝間ハ卷キ揚ゲテ夕方ニ卷下スノ設備ヲナセリ。食物モ過不足ナキ様ニ注意シ、且患者ノ嗜好スル品ヲ與エンコトニ務ムルガ如シ。醫藥、入院シテ醫治ヲ講セシコトアリ。ソノ他、(イ)○○在ノ○○田ノ瀧ト稱スルニ到リテ水行セシコトアルモ、患者ハ看護人ノ目ヲ掠メテ逃走シ行衛ノ不明明トナリタルコトアリ。(ロ)御嶽山ノ道者ヲ伴ヒ歸リテ宿泊セシメ祈禱セシメ、或ハ御嶽神社信者ノ先達ヲ頼ミテ寄堂ヲ置キテ祈リヲナシ、コレニ病症ノ原因・治療方ヲ問ヒ質シタルコトアリ。(ハ)一家專リテ日蓮宗ヲ信仰ス。(ニ)酸漿ノ根ト栝榴ノ皮ヲ煎ジテ飲マセシコトアリ。(ホ)蔞ノ黑燒ヲ服用セシメシコトアリ。

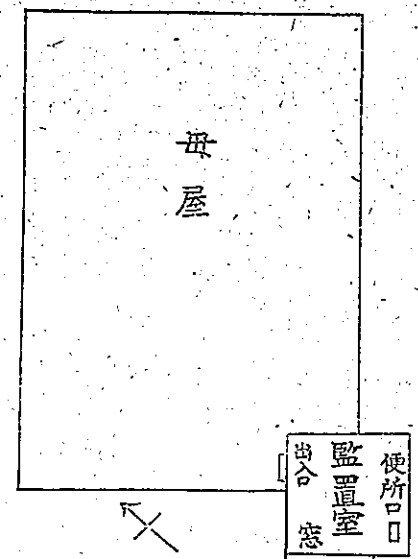
視察例中温情ヲ以テ最モ篤ク看護セラレタルモノ、一ナリ。

第四例

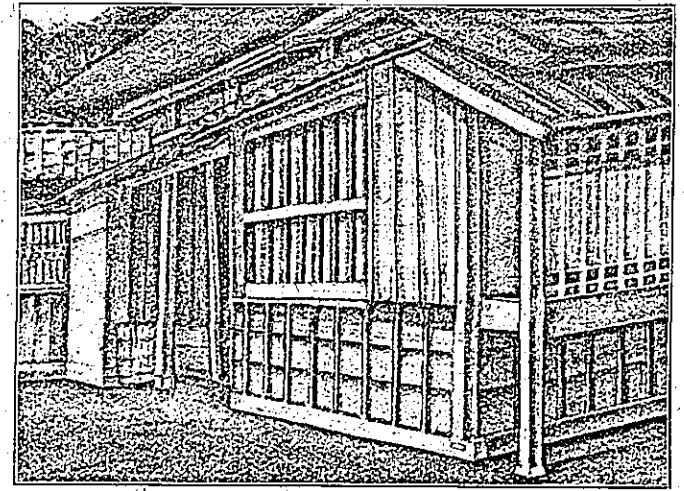
〇〇縣〇〇郡安〇村字安〇三八番地。無職、和〇よ。安政六年二月生。

監護義務者 養父、〇五〇。資産、地租十三圓位ヲ納ムル中流以上ノ農家ナリ。患者ハ七八年前ヨリ發病セルモノニシテ、四年前ニハ七箇月程東京府下ノ保養院ト稱スル精神病院ニ入院セルコトアリ。監置ノ時日、大正元年四月朔ノ病死セシ以來養父母ニ對シ危險ノ舉動アリ、同月之ヲ監置セシモ

(號三第)圖附 例四第



(號二第)眞寫 例四第



ノナリ。監置室ハ住宅ノ南端、四疊半ノ小座敷ヲ之ニ充テタルモノニシテ、西南側ノ西北寄ニ牀ヨリ凡ソ一尺五寸ノ高ヨリ上ハ天井ニ達スル六尺幅ノ窓アリ之ニ三寸角木材ヲ三寸間隔ニ打付ケ、中央ニ幅三寸ノ横貫ヲ入レタリ。窓ノ外ニハ兩戸アリ。室ノ他ノ三面ノ内側ヲ板張リトシ、西北側ニ板戸ヲ具ヘタル入口アリテ他ノ座敷ト交通スルコトヲ得。牀、板張リノ上ニ薄紗ヲ敷キ、南隅ニ排便口ヲ具フ。室内ハ一般ニ清潔ナル上ニ清潔ナル寝具、蚊帳ノ備アリ。換氣、採光ハ十分ニシテ四日強キ時ハ日避ノ籠ヲ垂ル、設備アリ。家族ノ待遇、患者ニ對シ極メテ懇切ニシテ、患者ガ家族ニ對シテ敵意ヲ有

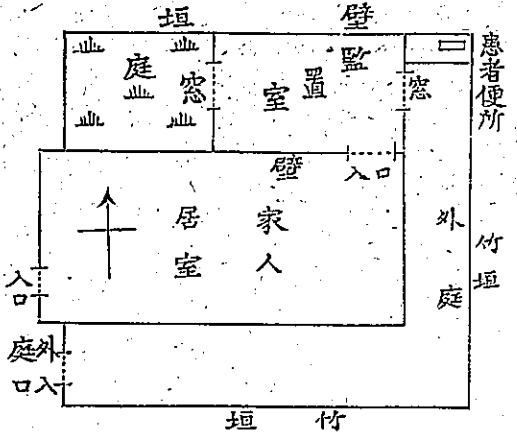
第五例

〇〇縣〇〇郡安〇村字安〇三八番地。無職、和〇よ。安政六年二月生。

スルニヨリ入浴ノ如キハ其都度親戚ノ手ヲ煩ハシ之ヲ行フ。一病狀、榮養佳良。理髮モ調フ。患者ト對話ヲ試ムルニ、其言フ所ハ多ク錯亂性ナリ。監護義務者 和〇榮〇。資産及ビ生活程度、資産トシテ記スベキモノナクドモ、官吏ニシテ中等ノ生活程度ナリ。監置ノ時日及經過、明治三十三年十月二日以來約十箇月ヲ經タリ。監置ノ理由、時々發作性ニ妄覺アリテ家人ニ暴行スルコトアリ。和〇榮〇ノ言

監置室、本宅内ノ一室ヲ改造セルモノニシテ、間口二間半・奥行一間・高サ三尺・天井高クシテ敷居上九尺ニアリ。室ノ東西兩側ニ方四尺ノ鐵窓アリ、北向天井ニ近キ部ニ幅一間半、高サ二尺ノ通風窓ヲ備フ。南方居室ニ接セル部ハ即、入口ニシテ幅三尺ノ扉アリ、其下三分ノ一(二尺位)ハ鐵「ホト」格子、上三分ノ二ハ板ヨリナル。東側ニ半坪許ノ普通便所ヲ備ヘ、板ノ扉ニテ之ヲ境ス。室内ノ模様、採光甚良好ナリ。壁上所々ニ鉛筆及ビ墨ニテ無意味ノ文字ヲ落書シアリ。室ノ一隅ニ蒲團二枚・耶穌教聖書・新聞・女學世界・視、鏡等皆整然ト之ヲ備ヘタリ。洗面所ノ設ケナキモ毎朝室内ニテ洗面ス。家人ノ待遇、患者ハ目下平靜ナルモ憤怒シ易キ爲メ屋外運動・沐浴ナド不十分ナリ。衣服ハ清潔ナリ。家人ハ患者ニ對シ同情アリ深ク好意ヲ以テ之ヲ遇ス。室ノ如キハ私宅監置室トシテハ甚完全セル者ニシテ、視察中稀ニ見ル所ノ者ナリ。病狀、患者ハ視察時ニハ跪坐シ獨語スルモ言語錯亂セリ。被害妄想及ビ拒絶症アリキ。醫藥、醫治之ナン。

(號四第)圖附 例五第



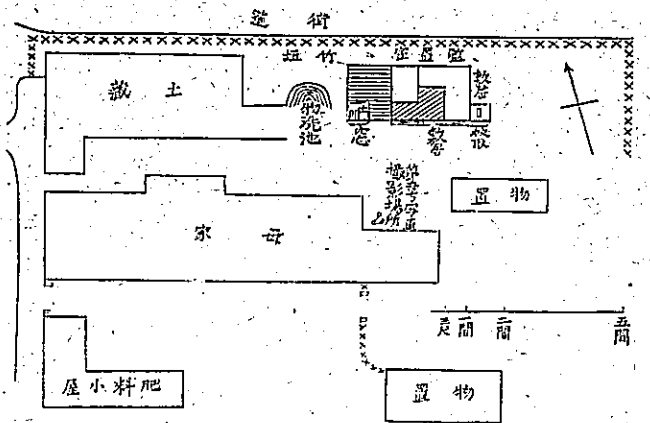
第六例

〇〇縣〇〇郡七〇村〇百六〇七番戶。平民、農(發病時ハ〇〇)

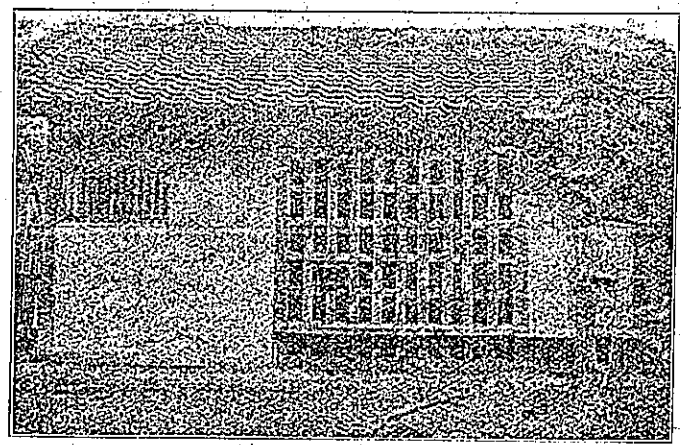
〇大學學生。菊〇惠〇郎。明治六年十月三日生。監護義務者、實弟菊〇郎。資産、富有ナル農家ノ部ニ屬ス。監置ノ理由、明治卅一年十月發病シ、戶外徘徊、破衣、不潔行爲アリ。刺激性ニシテ時々火ヲ弄スルヲ以テ、三十二年九月十三日監置セリ。監置室ハ居室ノ後ニ別棟トシテ之ヲ建テ。間口三間・奥行一間半。瓦葺平家ニシテ、牀ノ高サ一尺五寸アリ。西側(正シクハ西北側)ハ土壁ニシテ、南寄ニ三尺幅ノ入口アリ、コレヲ入レバ三尺四方ノ土間アリ。北側ハ土壁ニシテ、竹垣ヲ隔テ、街道ニ向フ。東側ノ北寄一間ハ四寸角木材ヲ用ヒ五寸間隔ノ格子造リニシテ、兩端ノ角柱ハ五寸角材ナリ。之ニ幅四寸・厚サ六分ノ横貫六本ヲ施シ、其外方ニ敷居

アリ、板戸二枚ヲ備フ、南寄三尺ノ部ハ東へ三尺ノ張出シトナシ土壁ニテ之ヲ圍ム、其ノ中央ニ幅四寸五分、長さ一尺二寸ノ排便口アリ、南側ハ上籠ノ張出シニ於テハ、一尺五寸ノ高さヲテ糞便液取口ニシテ竹篋子ノ被ヲナス。東寄一間ハ上籠ト同ジキ格子作ニシテ、其西寄ニ牀ヨリ一尺ノ高さニ、高さ七寸ノ幅一尺五寸ノ食物差入口アリ。其外方ニハ同ジク敷居アリテ冬季又ハ夜間ハ家人・他ヨリ板戸ヲ持來リテ之ヲ被ヒ遣ルト云フ。西寄一間ハ土壁ニシテ其中西寄四尺ノ高さニ幅二尺、高さ一尺ノ細格子窓アリ。全建坪四坪五勺ノ中、東寄三坪ハ牀並ビニ天井ヲ厚サ一寸ノ板張トナシ、牀ニハ四角形ニ古畳三枚ヲ敷ク。其西側南寄五尺ハ壁ニテ割シ、北寄四尺ニハ二寸角木材、二寸間隔ノ格子ニテ作リタル屏アリ、幅二寸厚サ三分ノ横貫六本ヲ備フ其中央部ニ幅一尺、高さ五寸ノ食物差入口アリ。南側ニ板戸ヲ當ツル時此處ヨリ食物ヲ供給ス。上方ヨリ二段目ノ横貫ハ壁ノ後ヨリ廻セル鎖ヲ纏ヒ、之ニ南京錠一箇ヲ施シアリ。最下段ノ横貫ニモ同様ニ鎖ヲ纏フモ之ニハ錠ヲ施サズ。第四段ノ横貫ノ稍、下方ニ三寸

(號五第)圖附 例六第



(號三第)眞寫 例六第

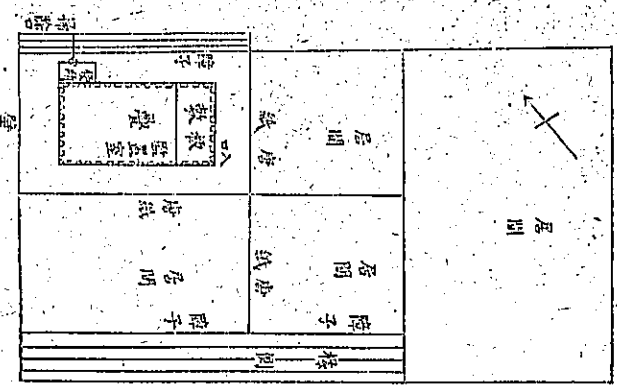


角、長さ七尺ノ四ヲ通シ、兩端角金ニテ固定スル外、門ノ扉ヨリ壁ニ移ル部ニモ鎖ヲ纏ヒアリ。監置室ノ採光・換氣佳良ナリ。室内ニハ蒲團二枚、枕一箇、箸一膳並ニ前記ノ疊三枚アリ。病狀、榮養普通ナリ。室ニ近ツク者ヲ叱責スルヲ以テ入浴運動ハ之ヲ勸ムルコト能ハズ、家人ノ待遇、大ナル不可ナキモノ、如シ。四日乃至十日ニ一回身體ヲ拭ハシム。洗濯ハ一箇月數回ナリ。冬季暖房ノ工夫ハ家人ノ殊ニ苦心スル所ナリト言フ。 醫藥、視察時ニハ之ナシ。 警察官ノ視察、一箇月三回位。

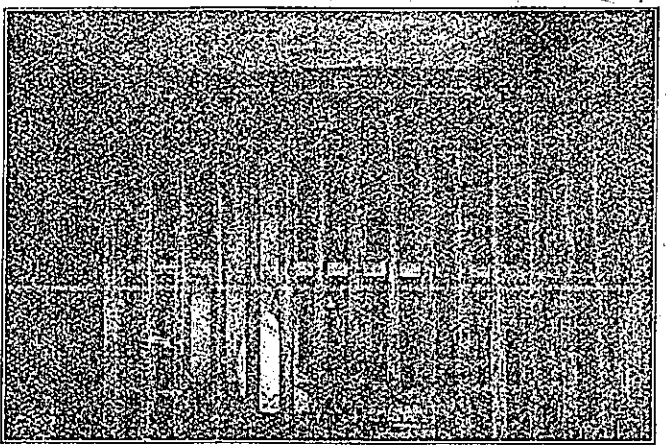
第七例

〇〇縣〇〇郡〇〇村〇〇字松〇〇原十〇番地。戸主、農。 國〇〇。 明治十二年三月二日生。 監置室ハ二間ニ二間半ノ居間内ニ設ケラル。監置室ノ大サハ一坪半、高さ一間ナリ。直徑二寸五分位ノ丸太ヲヨク削リ距離五寸位ノ格子作リトナシ、三方ヲ圍ム、一方板張トナシ。内一坪ニ疊ヲ敷ク。前面中央ニ食物差入口アリ。右側面ニ三尺四方ノ出入口ヲ附シ、後面左隅ニモ出入口ヲ附ケ(竊眞ノ左隅ニ障子ヲ見ル)之ヨリ張リ出シテ設ケラレタル便所ニ通ズ。 資産、上流ノ農家ニ屬ス。患者ハ發病當時(明治三十四年・三十五年頃)〇〇〇ニ赴キ醫療ヲ受ケタルモ治癒スルニ至ラザリキ。 病狀、目下ハ比較的平靜ニシテ榮養尋常、著シキ興奮ハナシト云フ。 醫藥、視

(號六第)圖附 例七第



(號四第)眞寫 例七第

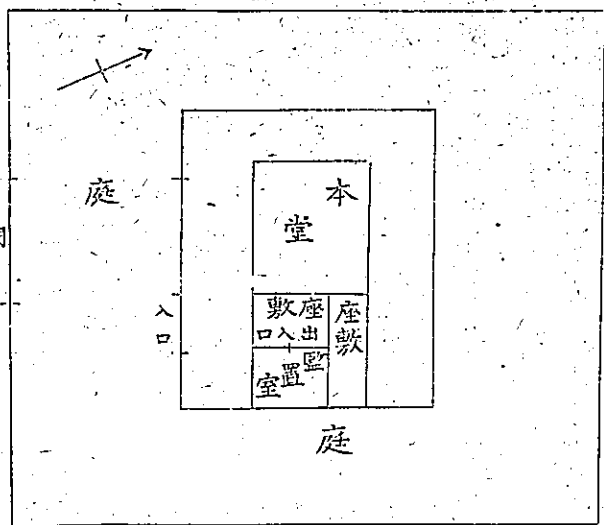


第八例

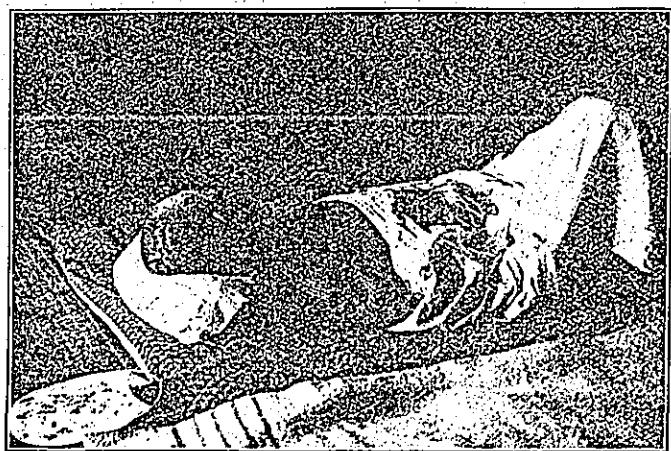
〇〇縣〇〇市〇〇水町五十〇番地。戸主、僧侶、眞宗大〇派〇〇寺住職。 志〇〇。 明治十二年一月二十七日生。 監置室ハ二間ニ二間半ノ居間内ニ設ケラル。監置室ノ大サハ一坪半、高さ一間ナリ。直徑二寸五分位ノ丸太ヲヨク削リ距離五寸位ノ格子作リトナシ、三方ヲ圍ム、一方板張トナシ。内一坪ニ疊ヲ敷ク。前面中央ニ食物差入口アリ。右側面ニ三尺四方ノ出入口ヲ附シ、後面左隅ニモ出入口ヲ附ケ(竊眞ノ左隅ニ障子ヲ見ル)之ヨリ張リ出シテ設ケラレタル便所ニ通ズ。 資産、上流ノ農家ニ屬ス。患者ハ發病當時(明治三十四年・三十五年頃)〇〇〇ニ赴キ醫療ヲ受ケタルモ治癒スルニ至ラザリキ。 病狀、目下ハ比較的平靜ニシテ榮養尋常、著シキ興奮ハナシト云フ。 醫藥、視

監置室、本堂ノ奥ニ在ル四疊半ノ座敷トス。即、一間半四方ノ廣サニシテ、敷居ヨリ天井マテノ高サ九尺アリ、牀下ハ三尺アリ。板ヲ以テ四壁ヲ被ヒ、之ニ一間四方及ビ三尺ニ二尺ノ二箇ノ窓ヲ設ク、採光・換氣十分ニシテ室内清潔ナリ。室ノ一隅ニ流シ場ヲ特設シテ洗面ノ設備具ハレリ。便所ハ室ノ一隅ニ

(號七第)圖附 例八第



(號五第)眞寫 例八第



一四
テ造リ、其外圍ニハ簾ヲ垂レテ之ヲ被フ。出入口ハ三尺ノ襖ニシテ、家族ノ居室ニ繼キ、致テ之ニ嚴重ナル鎖鑰ヲバ施サズ。病狀、榮養中等、舉止靜穩ニシテ、清潔ナル蒲團ノ上ニ安臥シ居タリ。之ニ談話ヲ交ヘントセシモ緘黙シテ答ヘザリキ。

家人ノ待遇、父モ眞宗僧侶ニシテ其妻ト共ニ監置室ノ隣室ニ起臥ス。宗教家ヲ父母トセル患者ノ處置ハ現今ニ於ケル私宅監置ノ一般狀況ヲ標準トシテ行届キタル者ト云ハザルベカラズ。室内ニハ清潔ナル蒲團・蚊帳アリ。毛布・團扇・茶器等ヲ置キ、沐浴・洗濯等ハ屢々之ヲ行ヒ、食事器具ニ對スル家人ノ注意周到ナリ。醫藥、普テ〇〇ヨリ〇〇博士ヲ請ジ診察ヲ受ケン事アリ。目下モ主治醫アリテ時々其診察ヲ受ク。警察官ノ視察ハ月ニ數度ナリ。

乙 普通ナルモノ

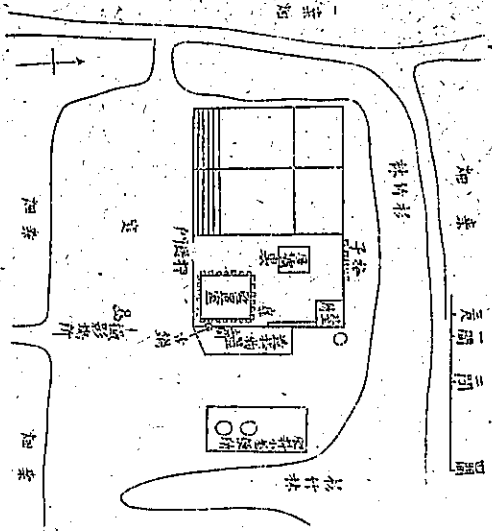
第九例

〇〇縣〇〇郡〇〇村字〇〇宮〇〇十五番地。 農、柴〇太〇。三十八歳。

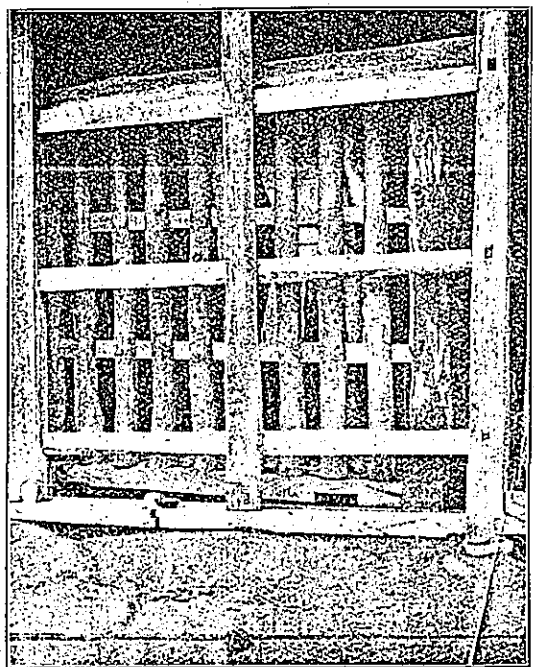
監置ノ場所ハ前記、自宅内ナリ。 監置義務者ハ同番地同業實父〇二郎ナリ。 資産ハ所住ノ家屋宅地ノミ。生活程度ハ農民中ノ下級ニ屬ス。

監置ノ理由、時日及經過、患者ハ好ミテ外出徘徊シ、飲食店ニ入りテ、他人ノ注文セル酒食ヲ攝リ、之ヲ制止スレバ家族・警官ニ反抗シ暴行スルヲ以テ、明治四十三年七月二十六日監置ノ許可ヲ得タリト云フ。監置以來四箇月ヲ經過ス。視察セン日ノ前々日ニ監置室ノ天井ヲ破リテ逃走シ、約八里ヲ隔ツル同郡〇〇町ニ到リ、裸體ニテ横行セルヲ發見シ、連戻レリト云フ。 監置室ハ本宅ノ東南隅ニアリ。東西北ノ三面ハ杉・竹混生ノ疎林ニ圍マレ、南ハ十五坪許

(號八第)圖附 例九第



(號六第)眞寫 例九第



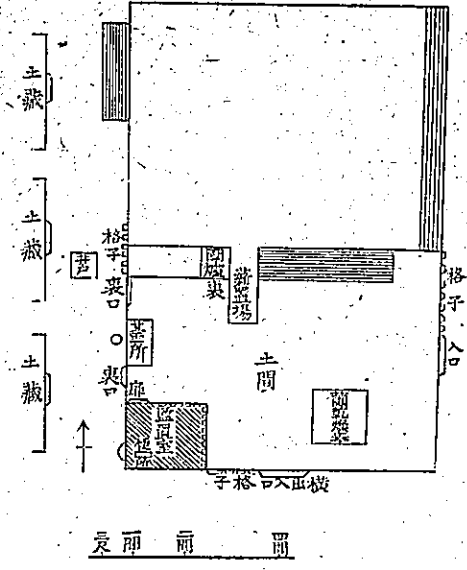
リノ庭ヲ隔テ、桑畑ニ面ス。門口奥行・高共ニ六尺ニシテ四壁ハ直徑四寸乃至七寸・間隔五寸乃至六寸ノ堅固ナル松丸太ノ格子ヨリ成リ、扉ハ北側ニアリテ、幅二尺・高三尺、堅固ナル板張ニシテ、蝶番ニテ固定シ、海老錠一箇ト三寸角ノ四一箇トヲ具フ。丸太格子ニハ上下二箇所ニ幅四寸・厚四分ノ横貫ヲ貫ク。天井竝ニ牀ハ厚一寸ノ松板ニテ張リ、其上ニ更ニ厚三分ノ松板ヲ張ル。牀ヨリ土間マテノ距離僅ニ五寸ナリ。室内ニハ團扇一箇・煙草入一箇・枕一箇・古靴一足ヲ認ム。其他ニ少許ノ打撲アリ。是ハ患者作業ノ製繩材料ナリ。病狀、患者ハ牀上ニ昔川席二枚ヲ敷キテ、其上ニ南京米ノ古袋ヲ展ベ、長半纏ヲ羽織リテ胡坐シ喫煙シツ、アリ。監置以來日尙淺キガ爲カ、榮養佳良、舉止活潑ナリ。 家人ノ待遇、喫煙ノ際ハ患者ノ妻傍ニアリテ一々火ヲ點ケヤレドモ、身體ノ拂拭ハ患者必ズ毎日親ラ之ヲ爲スト云フ。戶外運動ハ症狀ノ之ヲ許サルモノアルガ故ニ之ヲ行ヒシコトナク、尿ハ格子ノ間ヨリ東側底下ノ土間ニ放下シ、大便ハ患者ノ手ノ達スル東櫃ノ上ニ古鍋ヲ備ヘ置キ、此中ニ川辨セシメテ家人其都度之ヲ掃除スト云フ。室内ノ掃除モ患者ノ

親ラスル所ニシテ、殊ニ便利ナルハ監置室ガ危険ナラザル程度ニ圍爐近シ居ルガ爲冬期恰好ノ暖房方タルベキコト是ナリ。洗濯ハ之ヲ行フコト稀ナルカ如キモ、家人ノ居室、著衣モ不潔ナルヲ以テ特ニ患者ノミ不潔ナルニアラズ。 醫藥、主治醫ハ同村ニ住スルモ、五箇月來來診セシコトナシ。 警察官ノ視察、一箇月一回。

通氣竝ニ採光ハ好良ニシテ、若干ノ物品ヲ室内ニ置クモ之ガ爲メソノ妨ケラレ、コトハ無キモノ、如シ。本例ニ於テ喜ブベキハ作業法ノ行ハル、コトニシテ。假令、偶然ナリトハイハ暖房方ノ設備アルコトハ甚可ナリ。之ニ加ヘテ排泄物ノ處理ト清潔ト醫治トヲ改善セバ本例ノ程度ノ生活ヲ營ムモノ、私宅治療方トシテ他ニ多キヲ望ムコトヲ得ザルベシ。

第十例 ○○縣○○郡○○町○○字○○野○○十四番地。農。立○與○太。 四十七歳。
監置ノ理由及時日、患者ハ明治廿八年中○○地方裁判所ニテ私印盗用・私書偽造・詐欺取財未遂犯人トシテ有罪ノ宣告ヲ受ケシヲ不當トシ控訴セシモ同三十九年三月中東京控訴院ニ於テ重禁錮四箇月・監禁六箇月ノ刑ニ處セラレ、同四十年一月二十九日○○區裁判所ニ於テ禁治産ノ宣告ヲ受ケタリ。附來官公吏ヲ敬視シ、外出徘徊シテ、屢々警察署等ニ亂入スルコトアルニヨリ同四十年三月監置ノ許可ヲ受ケ視察時ニ及ブ。其年月數、滿三箇年ナリ。 資産、患者ガ多年訴訟ニ奔走セル爲メ往日ノ如クナラザルモ、猶相當ノ資産ヲ有シ、中級以上ノ生活ヲナス。本家ハ間口十間・奥行六間、二階建東向ナル大建物ナリ。

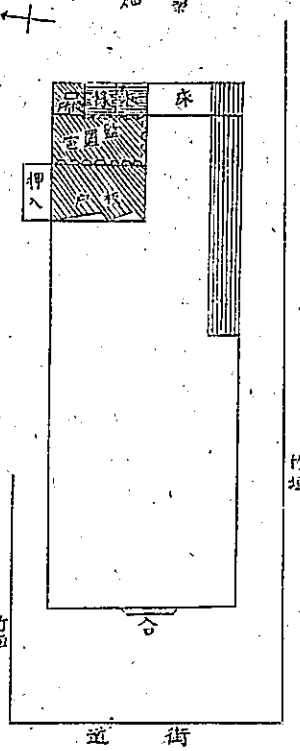
(號九第)圖附 例十第



監置室、本家ノ西南隅ノ土間ニアリ。間口・奥行各九尺・高六尺・牀下五寸アリ、四壁スベテ末口三寸ノ松丸太格子ヨリ成リ、格子ノ間隔ハ平均四寸ニシテ、直徑二寸ノ丸太貫四木ヲ具フ。天井ハ厚三分・幅三寸五分明キノ二階板牀ヲ之ニ應用ス。床ハ厚二寸ノ板張ニシテ、西南隅ニ幅五寸・長一尺二寸ノ排便口アリ、下ニ桶ヲ埋ム。牀ノ上ニハ寢具敷キ、之ニ被褥ヲ重テ、蒲團ヲ展ベ、蚊帳掛テ蒲團・寢具備フ。扉ハ北側ノ西寄ニアリ、幅二尺高三尺五寸・同様に木格子ニシテ横貫二木ヲ有シ、金具ニテ固定シ、海老鏡一箇・輪鍵二箇ニテ鎖ス。但シ輪鍵ハ當時使用セズ。通風・換氣ノ度ハ尋常ト認ム。 病狀、榮養ハ比較的ニ衰耗セズ。患者ハ日常新聞紙等ヲ讀ス。 家人ノ待遇、入浴セシムルコト一箇月ニ八・九回ナリ、洗濯ハ一箇月ニ四五回トス。時々家人ノ監視ノ下ニ邸内ヲ運動ス。 醫藥、之ヲ受ケシコトナシ。

第十一例 ○○縣○○郡○○社○○字○○社十七番地。農。根○駒○。 四十四歳。
監置ノ理由及時日、患者時々精神朦朧トナリテ頻ニ外出徘徊シ且時々發作性ニ刺激性トナリ家人ヲ打擲ストノ理由ヲ以テ明治四十二年八月九日監置ノ許可ヲ得、視察時迄ニ二年二箇月ヲ經タリ。 資産、中農程度ニシテ不動産ヲ有シ、生活ノ度ハ中級ニ位ス。 本宅ハ間口三間・奥行九間、西向ノ平家ナリ。監置室、本宅ノ東北隅ノ一室ヲ仕切リテ作ル。幅一間・奥行一間半・高七尺アリ。北側ハ板張トナシ、東側北寄三尺ハ開キテ後述ノ便所ニ通ジ、次ノ三尺ハ板張トナルモ、殘部竝ニ南側西側ノ全部ハ幅四寸・厚四寸・間隔五寸ノ木格子ニシテ、之ニ厚三分・幅五寸ノ横貫ヲ貫ケリ。扉ハ南側ノ東寄ニアリ、幅三尺・高七尺ニシテ、金具ニテ固定シ、巾着錠一箇ヲ具フル也。 上下二箇所ヲ麻繩ニテ緊縛シアリ、猶扉上縁ノ中央ニ輪鍵一箇、下縁ノ中央ニ輪鍵ノ止輪ダケ一箇アリ。天井ハ本宅ノ板張天井ヲ用ヒ、牀ハ六分板ノ板張ニシテ、古畳二枚ノ上ニ疊表二枚ヲ展ベタリ。北側ノ板壁ニハ南無妙法蓮華經ト記セル紙片ヲ貼ル。室内ニハ蒲團・蚊帳・絆襪各一箇・手拭一筋・帯一本・草履一足・珠數一連・小學校教科書取交セ二十部許ノ他ニ機寸小箱ト豆洋燈トヲ認ム。便所ハ東側北寄三尺ノ部ヨリ東方ニ張出シ、廣サ三尺四方アリ。四壁ハスベテ板張ナリ。排便口ハ

(號十第)圖附 例一十第

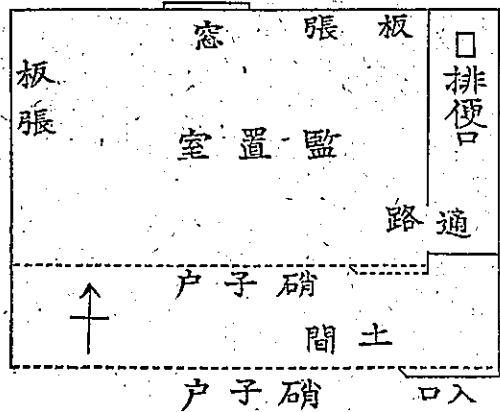


幅七寸・長一尺五寸アリ。 病狀、榮養尋常。 家人ノ待遇、發作以外ノ日ハ平靜ナル故一箇月十回位入浴セシメ一箇月四回位家人附添ヒ郊外ヲ運動セシムルコトアリ。洗濯ハ一箇月四五回ノ割合ナリ。採光・通氣ノ度ハ尋常ト認ム。室内ノ洋燈燐寸ハ注意シテ病増悪時ニハ之ヲ與ヘズト云フモ、尙危険ノ虞ナシト云フベカラズ。教科書ヲ與フルハ嚚口喜ブベシ。 醫藥、視察時之ナシ。 警察官ノ視察、一箇月ニ二回乃至三回ナリ。

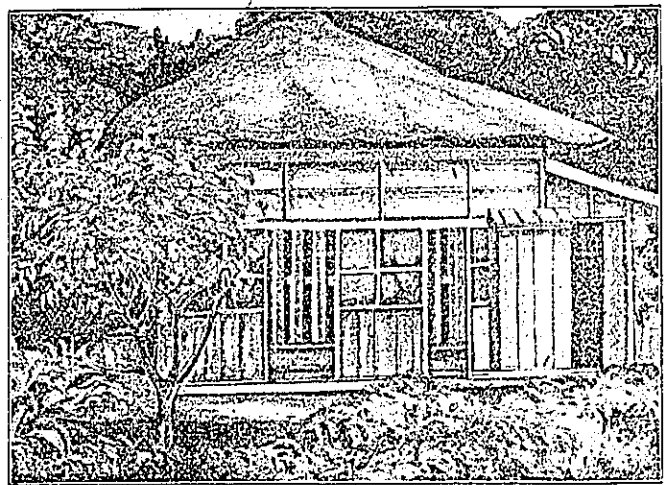
第十二例 ○○縣○○郡○○原○○町。農。淺○博○。 明治十四年九月生。
監置ノ理由及時日、十年前ノ發病ニシテ、爾來病勢次第ニ増悪シ、一時ハ東京ノ精神病院ニ入院セシコトアリシモ、其後退院シタリ。 病後或ハ火ヲ弄シ或ハ兇器ヲ所持シテ徘徊スル等、甚危険ナル行爲アリシ爲メ、明治四十一年十二月許可ヲ得テ監置スルニ至レリ。 監置室、邸内母屋ノ背後二十間位ヲ隔テタル畑中ノ丘ニ特ニ建築セル一棟ニシテ方二間ヲ有シ。監置室ノ東、北、西

ノ三面ハ厚キ板張リトシ、北面ノ中央上部ニ方二尺ノ窓ヲ開ク。南面ハ全部硝子戸ニテ之ヲ閉ミ。其ノヨリ三尺ノ土間ヲ隔テ、三寸角材ヲ二寸間隔ニ樹テ三箇所ニ横貫ヲ入レ、幅三尺ノ入口アリ。同様ノ構造ナル格子戸ヲ以テ之レヲ鎖ス。猶、室ノ東側ノ幅三尺ハ之ヲ板張リニテ割シ、二尺ノ通路ヲ南端ニ殘シ、北端ニ排便口ヲ開キ便所ノ設備トス。牀ハ二尺ノ高サヲ有シ二重ノ板張リトシ、牀上ヨリ天井マテハ七尺アリ。猶、監視室ノ東ニハ二疊敷及ビ半坪

例二十第 附圖(第一十號)



例二十第 眞寫(第七號)



ノ板敷ヲ有スル副室アリテ監視ノ任ニ當ル者ノ居室トス。被監視者ノ病狀、患者ハ室内ニ不行儀ニ横臥セリ、ソノ行爲ノ不潔ナルヲ以テ室内ニハ敷物ヲ置カズ只寢具ヲ存スルノミ。患者ノ現在症トシテハ拒絶症狀甚シク、沐浴ノ如キモ容易ニ之ヲ行ハシムルコト能ハザルヲ以テ身體不潔ナリ。榮養ハ著シク不食ナラザルモ、顔面ハ蒼白ナリ。換氣・採光等ニ對スル設備ハ十分ナルモ、直接患者ク

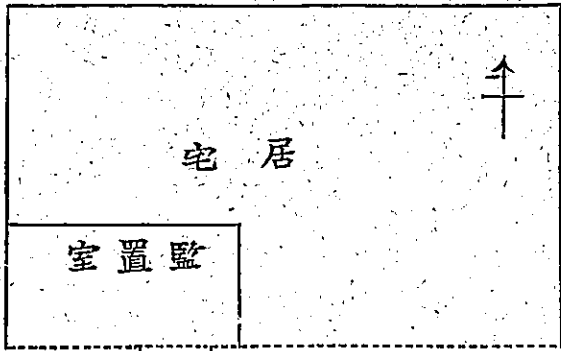
第十三例

〇〇縣〇〇郡波〇村〇字〇久〇。農。〇岡。一十三年

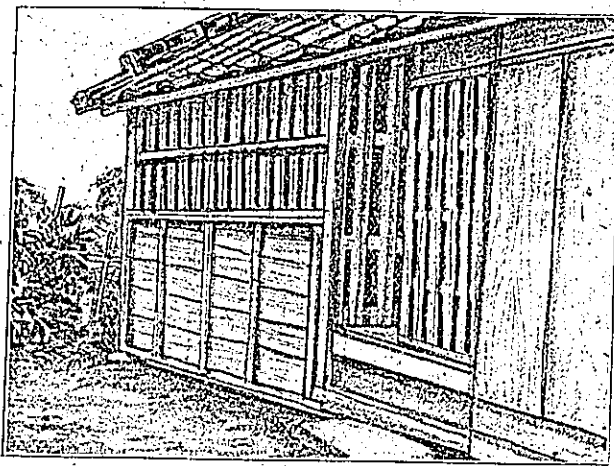
身體ニ關スル衛生ハ全ク之ヲ行ハズ、コレハ病狀ニ因ルベキモ亦專門的智識ヲ有スル看護人ナキニ基因ス。 監視義務者、父、〇三郎、資産、中流ノ農家ナリ。 監視ノ理由及時日、八年前發病シ、所々ヲ徘徊シテ不都合ノ行爲多カリシガ爲メ、大正元年秋ヨリ 監置ス。 監置ノ場所、居室ノ一部ニ在リテ監置室トシテノ規定ニ適合スベク之ニ僅ノ工事ヲ加ヘタルモノナリ。室ハ幅六尺、長サ二間アリテ其南面ノ西寄一間ノ下部ハ板張リトシ、其ノ上部三尺ハ一寸角材・二寸間隔ノ格子窓ヲ具ヘ、其東ニハ幅三尺ノ格子戸(一寸角材・二寸間隔ニシテ横ニ三分板ノ幅

二寸ノモノヲ、一寸間隔ニ附著セテアリ。其外ニ猶板戸アリ。其東三尺及ビ東一間ハ板張リトス。北面及ビ西面ハ塗り壁ノ内面ニ板ヲ張リタルモノニシテ、

例三十第 附圖(第二十號)



例三十第 眞寫(第八號)



北面ノ中央部ニ幅三尺ノ板戸アリテ居室ト交通ノ用トナス。牀下ハ二尺アリ、牀ニハ板張リノ上ニ薄絲ヲ敷ク、室内一般ニ清潔ニシテ採光・換氣亦十分ナリ。 病狀、榮養佳良、靜カニ室内ニ起臥ス。家人ノ待遇、入浴ハ常ニ家族ト共ニ之ヲ行ヒ、一見精神病者トシテノ特殊ナル取扱ヒヲ受ケ居ル者トハ思ハレザル程ナリ。是レハ病狀ノ然ラシムル所モアランガ、一ハ家族ノ待遇宜シキニ由ルモノナルベシ。

第十四例

〇〇縣〇〇郡鴨〇町〇字〇原。原〇傳。一十三年

監視義務者、父、〇松、資産、一千圓程ノ資産ヲ有ス。 監置ノ理由及時日、患者ハ東京ニ於テ職工タリシガ大正二年一月東京ニテ發病シ暴行ヲ致テセシ爲メ郷里ニ送ラレ、同年二月ヨリ監置セラルト云フ。 監置室ハ居室ノ一間ニ在リテ、南向九尺ハ三寸角材ヲ三寸間隔ニ立テ、割シ、其西寄幅三尺高サ牀ヨリ四尺ヲ入口トシ、同構造ノ扉ヲ設ケ、西側ハ板張リトシテ其北端ノ上部ニ幅二尺五寸・高サ三尺ノ窓ヲ開キ、南側ト同シ構造ノ格子ヲ備フ。 北及ビ東側ハ全部板張リトス。牀及ビ天井亦板張リニシテ牀ニハ薄絲ヲ敷ク、換氣・採光ハ稍々充分ナリ。 病狀、監置當時與舊シテ破衣甚シカリシガ、目下ハ甚靜ニシテ時々室内ニテ沐浴ヲ行ヒ、榮養モ佳良ナリ。 醫藥、之ナシ。

第十五例

〇〇縣〇〇郡大〇村字西〇〇八番地。農。船〇昌〇郎。文久三年七月十三日生。

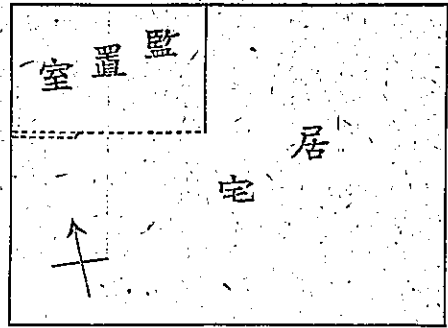
監視義務者、妻、龜〇〇。 資産及ビ生活程度、地價數萬圓ノ不動産ヲ有シ同村第一ノ資産家ナリ。 監置ノ時日及ビ其經過、明治三十三年十月二

十二月以來十箇年十箇月。

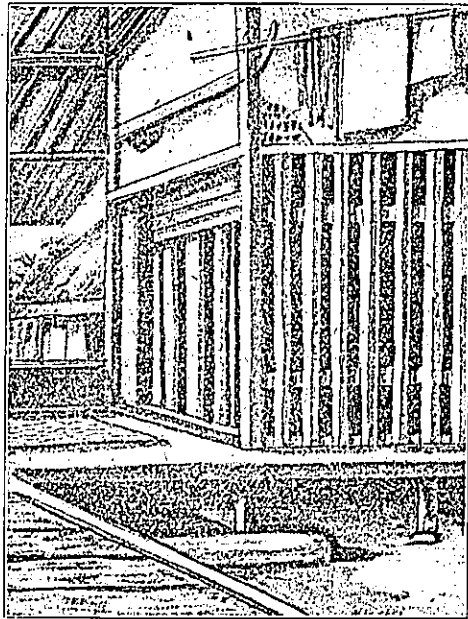
監置ノ理由、家人及ビ他人ニ難題ヲ吹キ掛ケ、刺ヘ破壊・暴行ノ舉動アリシガ爲メナリ（義務者ノ陳述）。

監置場所

(號三十第)圖附 例四十第



(號九第)眞寫 例四十第



庭園ヲ以テ本宅ヨリ隔リタル別建物ニシテ、間口二間半・奥行二間ノ瓦葺根、天井ハ高サ九尺ニシテ、牀ハ二尺ノ高サヲ有ス。室ノ南北壁ハ板ニテ張リ、西方ノ幅一間・高四尺ノ窓ハ二寸五分角材格子ヨリ成リ、前方ハ前庭ニ開放シ只障子ヲ備フルノミ。室ニハ四疊ノ疊ヲ敷キ、只入口ノ一疊敷

ノ廣サハ一尺許リ低キ板ノ間アリ。而シテ前方北壁ニ近ク穿孔ヲ以テ便所ニ充ツ。洗面ノ設備ナシ。室内ニハ標準入及ビ火鉢アルノミ。而シテ東西ニ窓ヲ有スルガ故ニ採光良好ナリ。家人ノ待遇、患者ハ癡呆状態ニアリテ緘黙。榮養眞・寢食尋常ナリ。患者發病前ハ性質溫厚篤實ニシテ比較的學識アリ、嘗テ村長タリシコトモアリテ村民ノ敬慕スル所トナリシモノナルヲ以テ、發病後ト雖、家人ハ勿論、近隣ノ者モ患者ニ同情ヲ寄セテ已マズ。極稀、患者時々暴行セシガ爲メニ家人ハ餘儀ナク患者ノ左足關節部ニ手指頭太、長三尺ノ鐵鎖ヲ著ケ、其一端ハ北壁下ノ牀ニ固定スルコト動物園ノ象ノ如ク、視察者ヲシテ異様ノ感ヲ起サシメタレバ、視察者ハ家人ニ其故ヲ難シタルニ暴動發作ノ時ニハカ、ル法ニ依ル外ナント辯解セリ。願フニ其發病當初ニ於テハ此ノ如キ鎖輪モ時トシテ必要ナルコトアリシナランモ、既ニ癡呆ニ陥リタル視察時ノ状態ニ於テハ殆ド其要ヲ見ザルガ故ニ視察者ハ之ヲ解除スベキヲ忠告セリ。蓋、看護義務者ト雖、其夫ニ對シテ惡意ヲ以テ之ヲ爲スニアラザランモ、一度是ガ暴行ニ懲リタル結果、之ヲ解クノ勇ナク、患者モ亦長年月ノ間ニ其癡呆ト感情鈍麻トノ進ムニ從ツテ途ニ之ニ慣ル、ニ至レル者ナリ。醫藥之ナシ。警察官ノ視察、直轄駐在巡查ハ大抵一年ニ一二度其新ニ就任ノ時ニ之ヲ過ギルノミ、其他ニモ隨時來視ルコトアルモ度數一定セズ。

第十六例

〇〇縣〇〇郡大〇村字西〇〇八番地。龜〇信〇。

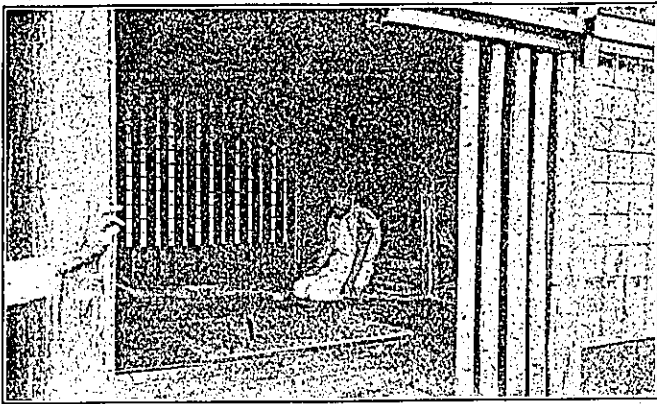
明治十九年四月二十三日生。

職業、學生。監護義務者、實兄、龜〇致。

監置ノ時日及ビ其經過、明治四拾三年六月拾四日以來一箇年二箇月。

室内ニ閉テ籠リ讀書ニ耽リ沈鬱状態ニアリシガ、明治四拾三年六月以來放尿脱糞スルコトニ之ヲ衣服又ハ室内ニ塗り附ケ或ハ大聲放歌スルガ爲メニ監置セルナリ（監護義務者ノ陳述ニヨル）。監置ノ場所、前例ニ混シタル監置所ノ西南方ニ位シ、南面セル瓦葺木造ノ別建物ニシテ、間口ハ二間・奥行モ二間ニシテ天井ハ九尺ノ高サ床ハ二尺ノ高サヲ有シ、室ノ前面及ビ左側ニハ全部徑四寸材ノ格子ヲ備ヘ、ソノ外方ニハ障子及ビ雨戸ノ設ケアリ。監置室ノ總坪數ハ四坪、内二坪ハ疊敷ナレドモ他ハ一坪宛ノ板間ト土間トナリ。室ノ入口奥ニ便所アリ。洗面所ノ設ケナシ。此ノ如キノ建物ナルガ故ニ通

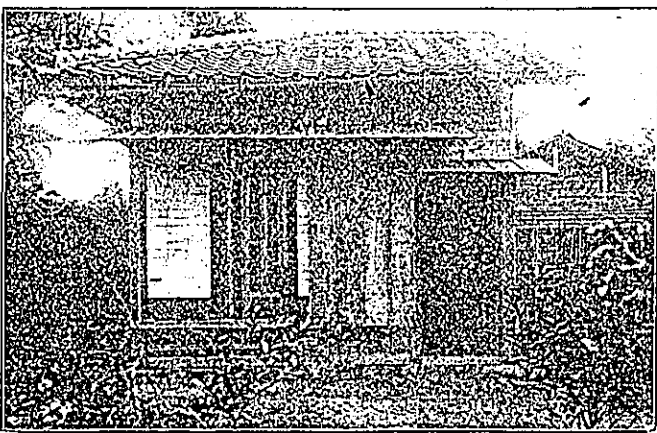
(號十第)一其眞寫 例六十第



(號一十第)二其眞寫 例六十第



(號二十第)三其眞寫 例六十第

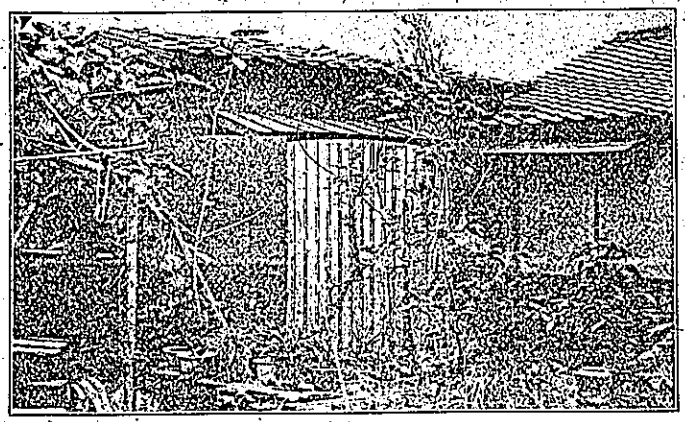


風採光甚良シ。病狀、榮養普通ナリ。醫藥、之ナシ。極稀、上述ノ如ク監置所ノ模様ヲ見ルモ、家人ハ其資産ニ應ジタル程度ヲ以テ患者ヲ遇スト雖、患者ハ刺戟性ニシテ憤怒易ク、或ハ大便ヲ食シ或ハ拒絕症ノアル爲メ、入浴又ハ屋外運動ノ絶無ナルハ勿論、其父ト同様鐵鎖ノ束縛ヲ加フルノ已ムナキニ至レリト云フ。目下ノ興奮状態ヲ以テスレバ此束縛ハ其父ニ施セルニ比スレバソノ理由ナキニアラズト雖、然モ絶對的ノ必要トハ言フベカラズ。刺ヘ患者ノ如キ比較的病初期ノ者ハ之ヲ私宅監置ニ任サンヨリハ寧、速ニ專門病院ニ委テテ治療セシムルノ最適當ナルニ如カズ。故ニ視察者ハ

再び之が注意ヲ與ヘ、且ツ處方醫ヲ與ヘテ辭シ去レリ。 警察官ノ視察、前例ニ同シ。 家族、同家ニハ其他ニ三人ノ精神病者アリシガ皆死亡シ、加フ
ルニ一女ハ躁狂者ナリ。實ニ悲惨ナル運命ニアリト云フベシ。

第十七例

〇〇縣〇〇市〇町〇丁目十〇番地。影〇〇。慶應元年九月四日生。 發病當時ハ女學生ナリキ。
監護義務者、父、影〇〇一郎。(宣教師) 資産及ビ生活程度、中等、不動産ナシ。 監置ノ時日及ビ其經過、明治三拾九年六月七日監置セラレン以
來視察時ニ至ルマテ五箇年ヲ經過セリ。 監置ノ理由、意ニ精ヲアルコトアレバ忽チ家人ニ對シ器物ヲ投擲シ、時々外出徘徊シ、或ハ他家ノ物品ヲ盜
ミ來レルガ爲メナリ(實母陳述)。 監置ノ場所、居室ノ前庭右側ニ之ヲ接シテ造レル別建物ニシテ、前方拾數坪ノ空地ヲ隔テ、教會堂ニ接ス。間口二



(號三十第)眞寫 例七十第

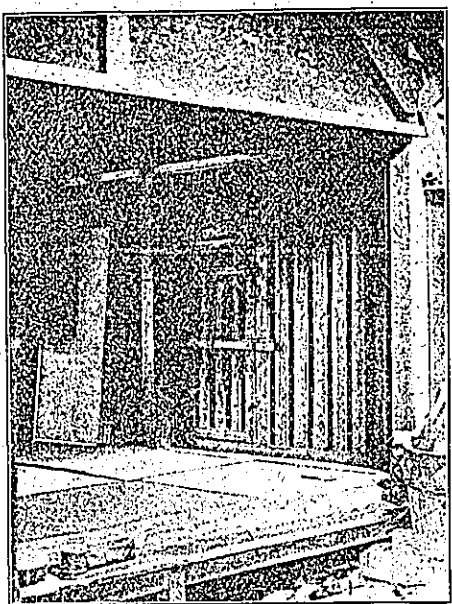
間、奥行一間半、天井ノ高サ九尺、床ノ高サハ地上約二尺、瓦葺木造建ニシテ、前側一間ハ鐵格
子ナンドモ他ノ三面、天井、床共ニ、内面ハ總テ薄鐵板張リトス。向ツテ右ナル壁ニ高サ四尺、
幅三尺ノ扉(内面鐵板張)アリ之ヲ出入口トシテ之ニ錠前ヲ施シタリ。天井ノ左ノ隅ニ直徑八
寸位ノ通風窓アリ。 室内ノ櫛、器具トシテハ古梳一箇アリ。患者ハ一隅ニ著衣ヲ無造
作ニ脱キ捨テ、裸體ノ儘踞ス。室ノ左後隅ノ床ニ裂隙ヲ穿テ其直下ニ櫛ヲ置キ以テ排便
用ニ供ス。洗面等ノ特別ナル設備ナク、只家人カ水盤ヲ室内ニ入レ與フレバ時ニ洗面スルコ
トアリト云フ。採光、換氣ニ對シテハ室ノ前面ニ鐵窓アルモ、窓前ニ高サ八尺ノ板扉ニ之接近
スルガ爲メ室内陰鬱タルヲ免レズ。 病狀、被監置患者ハ榮養中等、癡呆狀態ニアリテ裸
體ノ儘踞ス。注意力ヲ缺キ、只茫然低聲獨語スルノミ。家人ノ待遇、同情深ク、好意ヲ以テ
之ヲ遇ス。三食ハ梳ニ盛リテ之ヲ與フ、食慾衰。排便ハ時々室内ニ於テスルコトアルモ大抵
ハ患者自ラ之ヲ便ズルガ故ニ、比較的清潔ニ保タル。沐浴ハ月ニ二回宛、室内ニ湯ヲ持
運ビテ之ヲ爲サシム。只屋外運動ハ其逃走ヲ恐レテ全ク行ハズ。 醫藥、其發病當時ハ種
種之ヲ盡センモ、爾後患者ハ受診ヲ拒ミ且、家族モ其切迫セル必要ヲ認メザリシニヨリテ近
來ハ全ク之ヲ廢セリト云フ。 警察官ノ視察、一箇月ニ一、二度宛ナリ。

第十八例

〇〇縣〇〇市上〇町〇十二番地。魚商、〇村〇吉。明治二年三月生
監護義務者、母、〇村〇〇。資産及ビ生活程度、中等、不動産ナシ。 監置ノ時日及ビ其經過、明治四拾年六月。 監置以來視察時ニ至ルマテ四箇年
二箇月。 監置ノ理由、患者ハ二拾歲頃ヨリ月ニ三回ノ癲癇癩癩發作アリ。且、大酒家ニシテ一回ノ量約一升ニ及ビ、醜聞ノ結果時々暴行、放歌

甚シク或ハ戶外徘徊數日ニ亙ルコトアリシト云フ。病症此ノ如クナルガ故ニ絶エズ監置スルノ必要ナク、平靜ナル時ハ本人ノ希望ニヨリ監置所ヨリ出ス
コトアルモ何等ノ危險ヲ見ズト云フ。(被監置者ノ妻ノ陳述ニヨル)

(號四十第)眞寫 例八十第

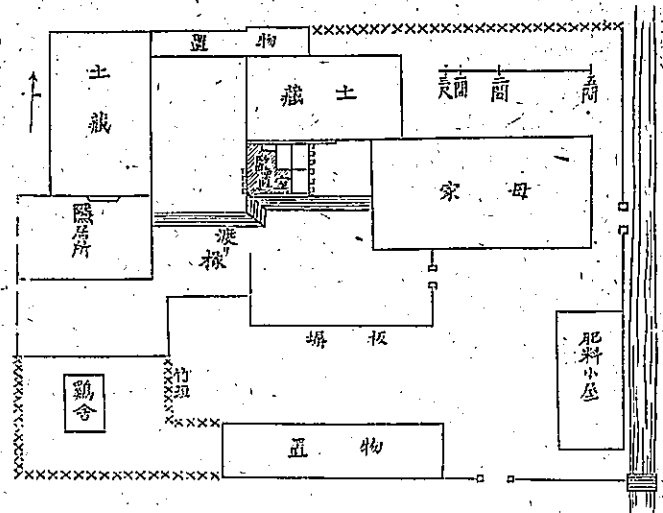


監置室、住宅ノ一部ナル納屋ノ一隅ヲ改造セルモノニシテ、間口二間、奥行一
間、高ハ一間ニ過ギズ。天井ハ素板ニテ之ヲ張リ、四壁ハ三寸角格子ヲ以
テ之ヲ圍ミ、其ノ一面ハ家人ノ居室ニ面ス。床上ニ三疊ノ疊ヲ敷キ其上ニ
蒲團アリ、残り一疊敷許ハ疊ナク、其一隅ニ長サ二尺幅一尺計リノ裂隙ア
リ、以テ排便口トナス。採光極メテ不良ニシテ内部ノ視察ニ便ナラズ。
病狀、患者ハ榮養中等、平靜、注意力衰ニシテ、視察者ノ至レルヲ見テ、
直ニ之ヲ誰何スルモ、其ノ來意ヲ語レバ、快ク自ラ監置室ヨリ出テ、診察ヲ
請ヘリ。其言フ所多クハ正鵠ヲ失ハズ。居室、被服ハ比較的清潔ニシテ、月
ニ二回、好シテ沐浴ス。 家人ノ待遇、家人ハ厚意ヲ以テ患者ヲ遇シ、

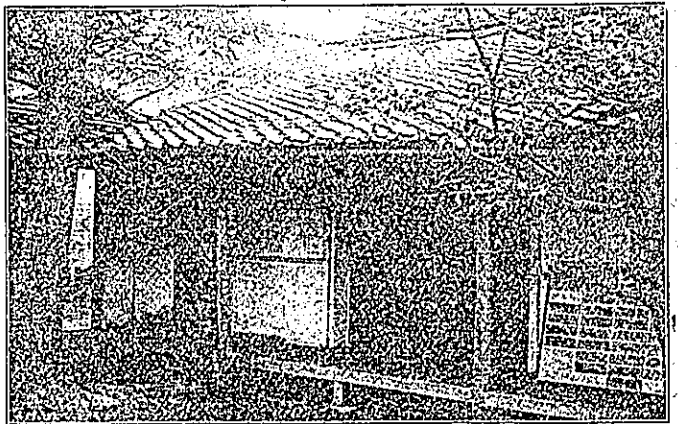
第十九例

〇〇縣〇〇郡大〇田村〇里〇千〇百〇九番戶。平民、農。 河〇〇〇。 明治三年八月二十三日生。
生活程度ハ中ノ上位ニアリ。 監置義務者、甥、〇西〇廣。 監置ノ理由及時日、明治三十九年中發病シ、外出徘徊シテ他家ニ立入り不潔強情ニシテ時々
家人ニ抵抗スル爲メ同年五月二十三日監置許可。 監置室ハ居室ト土藏トヲ連ル奥座敷ノ一部ニシテ四坪ノ廣サアリ。北側ハ土藏ノ壁ニ接シ、南側
ハ戸袋ノ裏ニ當リ壁ニテ割セル。東側ニハ幅一尺五寸、厚サ一寸、間隔一寸五分ニテ幅一寸、厚サ三分ノ橫貫五本ヲ有スル格子戸三本アリ。其中北寄ノ
二本ハ同シ敷居ノ溝ニ立テ付ケアレドモ、南寄ハ一本ハ之ニ隣ル溝ニ嵌メアリテ開閉シ得ベシ。其第一段ノ橫貫ト之ニ接スル柱トハ各輪釘ヲ有シ之ヲ細
キ麻繩ニテ結ビタリ。中央ノ格子戸ノ北寄ニ三尺ノ高サニ七寸ノ食物菜入口アリ。鴨居ハ幅三寸、高サ五寸ニシテ、奥座敷ノ天井ハ土藏ノ屋根ニ
差掛ケ作レルヲ以テ傾斜シ居リ、天井ト鴨居トノ間隔ハ廣キ所ニテハ一尺五寸ニ及ブ。西側北寄一間ハ壁ナルガ南寄一間ニハ一寸五分角材、間隔二寸ニ
テ幅一寸五分、厚サ三分ノ橫貫四本ヲ有スル格子戸ヲ嵌メ込ミアリ。格子戸ノ内側ニ障子二枚ヲ具ヘ、更ニ内側ニ板戸ヲ抽出スベキ満アリ。室ノ西南隅
ニ幅二尺、長サ四尺ノ板張アリテ、其中央ニ幅七寸、長サ一尺二寸ノ排便口アリ。床下ニハ瓶ヲ埋置シ時々掃除ス。採光、換氣不良ナリ。室内ニハ疊三枚
ト一疊ノ四分ノ一程ノ小疊一枚トヲ敷キ、蒲團敷布各一枚、枕一箇ヲ入レアリ。入浴ハ四日一回、掃除ハ一週一回、洗濯ハ一箇月四回。運動ナシ。
病狀、榮養中等。既ニ高度ノ癡呆ニ陥レルモノ、如ク無頓著ニ仰臥シ絶エズ空笑ス。 醫藥、數年來之ヲ試ミス。 警察官ノ視察、一箇月三回。

第九十例 附圖(第四十號)



第九十例 眞寫(第一) (第五十號)

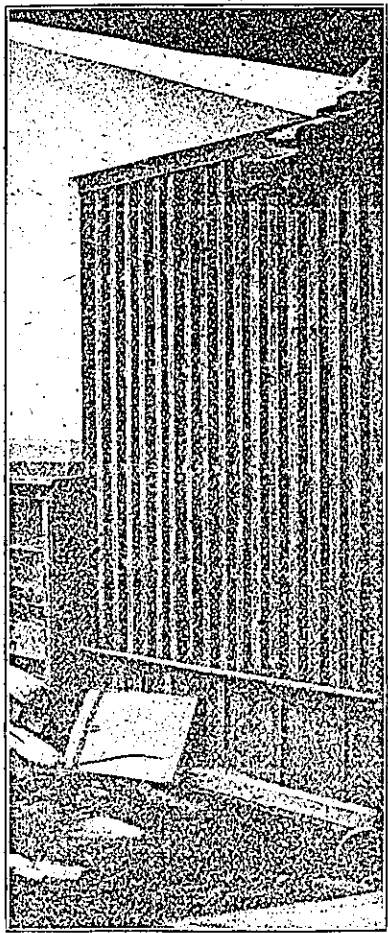


二四
家人ノ待遇、普通ナリ。

第二十例

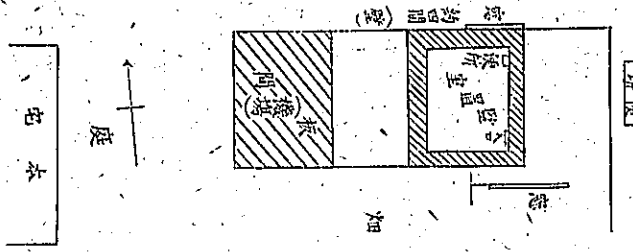
縣〇〇郡松〇町。平民。か〇長男、農立〇義太〇。明治八年五月十五日生。監護義務者、母、立〇か。資産及ビ生活程度、相當ノ資産ヲ有シ、中流ノ生活ヲナス。監護開始ノ時日、明治三十六年七月。監護ノ理由、明治二十五年發病、外出徘徊甚ク時ニ山中ニ徘徊スル等ノ行爲アリシ爲メ監護セリ。監護ノ場所、本宅ヨリ五六間離レタル物置内ニアリキ。監護室、廣サ一坪、高サ一間ナリ。周圍ハ丸太ニテ木柵トナシ天井及ビ牀ハ板張ニテ、蒲團ナク疊ナシ、患者ニ不潔症アル爲メ室内周圍不潔ナ

第九十例 眞寫(第二) (第六十號)

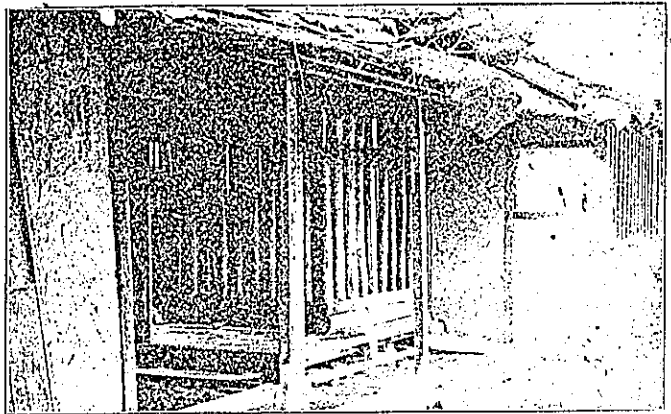


リ。然シ掃除ハ行届ケルモノ、如ク物置内ハ清潔ナリ。物置ニハ北ニ半間ノ高窓アリ、南ニ一間高サ二尺程ノ窓アリ、窓ノ傍ハ一間ノ出入口ナレバ採光・換氣比較的十分ナリ。寒氣風雨ニ際シテハ出入口及ビ窓ヲ閉鎖シテ以テ之ヲ防グ。便所ハ東側北ニ寄りテ造リ、抽斗トセリ。洗面所ナシ。監護室ノ構造ハ普通ナリ。家人ノ待遇、實母主トシテ之ヲ看護ス。ソノ待遇ハ能ク親切ラ盡セリ。病狀、沈靜セル時ハ面ヲ洗フモ、然ラザル時ハ洗面セズ。食事ハ普通ノ如ク膳立シテ與ヘ、母附添フテ食事セシム。然ツテ、膳ヲ放擲スルコトアリ。入浴ハ月二回位ニシテ天氣ノ好キ日ニ本宅ニ連出スコトアルモ、毎日ノ運動ナシ。醫藥、醫師某時々來診ス。服藥ヲ拒ム。醫藥官ノ視察、毎月二回。

第十二例 附圖(第五十號)



第十二例 眞寫(第七十號)

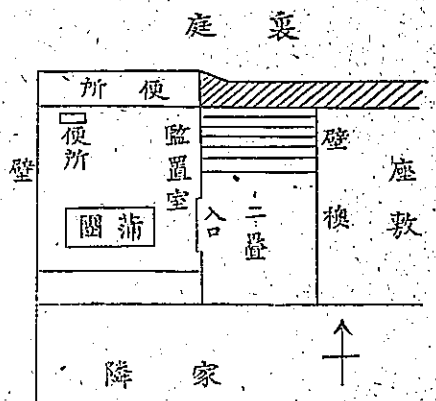


光・換氣比較的十分ナリ。寒氣風雨ニ際シテハ出入口及ビ窓ヲ閉鎖シテ以テ之ヲ防グ。便所ハ東側北ニ寄りテ造リ、抽斗トセリ。洗面所ナシ。監護室ノ構造ハ普通ナリ。家人ノ待遇、實母主トシテ之ヲ看護ス。ソノ待遇ハ能ク親切ラ盡セリ。病狀、沈靜セル時ハ面ヲ洗フモ、然ラザル時ハ洗面セズ。食事ハ普通ノ如ク膳立シテ與ヘ、母附添フテ食事セシム。然ツテ、膳ヲ放擲スルコトアリ。入浴ハ月二回位ニシテ天氣ノ好キ日ニ本宅ニ連出スコトアルモ、毎日ノ運動ナシ。醫藥、醫師某時々來診ス。服藥ヲ拒ム。醫藥官ノ視察、毎月二回。

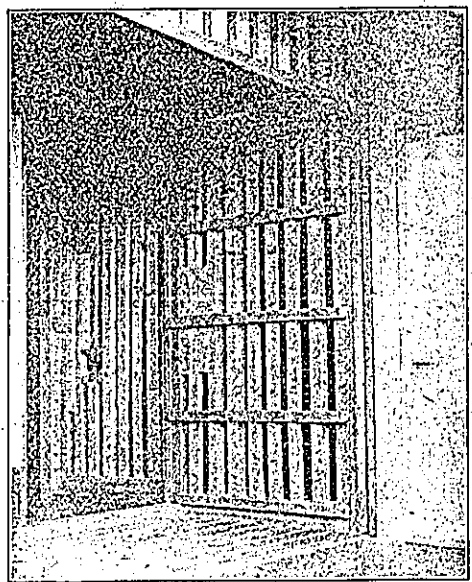
第二十一例 〇〇縣〇〇郡松〇町千〇百二〇番地。平民。〇三郎。商業。高〇〇。四十歳。監護義務者、夫、高〇〇三郎。資産及ビ生活程度、

生絲、繭等ヲ行商シ、相當ニ生活ス。監護ノ時日、明治四十年六月。監護ノ理由、明治三十四年産後精神病ヲ發生シ長野赤十字病院ニ入院シ輕快退院セリ。明治三十九年再發シ、戶外徘徊亂暴ヲナン忿怒スレバ家人ヲ毆打シ器物ヲ破壊スル等ノコトアルヲ以テ監護セリ。監護ノ場所、本宅ノ庭所ト其ヨリ座敷ニ通ズル縁トヲ利用セルモノニシテ、監護室、内部ノ牀ノ半部ハ一寸程高シ、廣サ一間ニシテ天井ノ高サ七尺餘アリ。室ノ南北兩側ハ壁、西及ビ東ノ半部板張、東ノ半部縁ニ面シタル部ノミ格子トセリ。採光・換氣共ニ不長ナリ。便所ハ室ノ北西隅ニ在リ、牀下ニ箱ヲ置キ之ガ掃除ニ便ニセリ。洗面所ノ設備ナシ。家人ノ待遇、食事ハ椀ニ飯ト菜トヲ別々ニシテ與フ。室内ヲ掃除スルコト一箇月ニ一回或ハ二箇月ニ一回ナリト云フ。入浴セシムルコトナシ。運動ニモ出サズ。室内ハ患者ノ取り散シタルマ、ニセリ。看護ニハ母及ビ子供等之ニ從事ス。醫藥、ヲ受ケルコトナシ。醫藥官ノ視察、毎月二回ナリ。

(號六十第)圖附 例一十二第



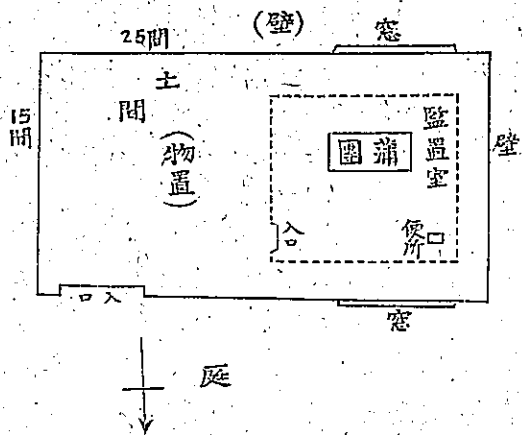
(號八十第)眞寫 例一十二第



二六
監置室ノ構造不完全ニシテ、採光・換氣不十分ナリ。患者ハ生活ニ餘裕ナク、衣食ノ資ヲ得ンガ爲メニ、釜蓋製絲ニ忙殺セラルルヲ以テ看護ノ不十分ナルハ數ハ免レザル所ナルベシ。

第二十二例

(號七十第)圖附 例二十二第



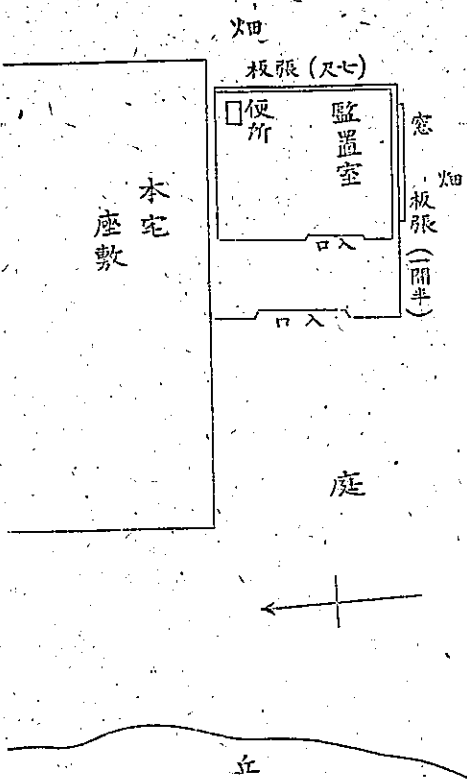
本宅

〇〇縣〇〇郡鹽〇村。平民。戸主。農。清〇〇重。五十五歲。監置義務者。妻。清〇〇わ。資産及ビ生活程度。普通。監置ノ時日。明治三十三年九月。監置ノ理由。明治二十四年頃(二十一年前)旅行キ沈鬱シ厭世的ニナリ「死にたい」ト云フニ至リ、婦郷後遺ノ種買ト稱シ旅行ニ行キテハ飲酒浪費放蕩ヲ爲スコト多ク、之ヲ止ムレバ怒ルニヨリ監置スルノ已ムラ得ザルニ至レルモノナリ。監置ノ場所。本宅ヨリ約七八間離レタル裏ノ物置内ニ監置室ヲ造レリ。物置ハ横二間半。縦一間半ニシテ、北ニ東ニ寄りテ中間ノ入口及ビ南北兩側ニ監置室ニ對シテ高窓アリ。故ニ採光・換氣十分ナリ。物置ノ基地ハ土間ナリ。監置室。廣サ一坪。高サ六尺。牀下一尺強ナリ。天上及ビ牀ハ板張ニシテ、四圍ハ二寸角木材ノ柵トセリ。室内ニハ炭座ヲ敷ケリ。室ノ位置ハ物置ノ西側ニアリ。物置内ノ掃除ハ清潔ナリ。便所ハ西北隅ニ設ケ、牀下ニ糞ヲ敷キ、排便毎ニ糞ヲ捨ツル機ニセリ。洗面所ノ設備ナシ。家人ノ待遇。毎朝手拭ヲ濕シテ與ヘ洗面セシム。食事ハ

第二十三例

〇〇縣〇〇郡駒〇根村〇字〇小〇五〇六〇番地。平民。〇太郎。農(元〇〇組材木切出係、古〇鍋〇。四十五歲。監置義務者。妹婿。松〇〇太郎。資産及ビ生活程度。相當ノ資産ヲ有シ、中流ノ生活ヲ爲ス。監置ノ時日。明治四十四年四月。監置ノ理由。明治三十九年十二月〇〇縣〇田町ニ〇〇組材木切出係トシテ住居中、歩行困難トナリ、明治四十年六月及八月二回上京シ眼科大學及ビ〇〇〇ノ診察ヲ受ケ骨髄液ト診断セラレタリ。同年十月郷里ニ歸リテ静養セリ。然ルニ明治四十四年三月頃ヨリ家人ノ言フコトハ氣ニ入ラズ器物ヲ放棄シ、皆テ蠅蟲ノ出テタル爲メ上京シテ大學病院ノ診察ヲ受ケントテ醫ギ出センコトナドアリタリ、是等ノ爲メ監置セラレタリ。其後患者ハ監置室内ニテ亂暴セシコトアリシモ同年五月ニ入りテ漸次沈靜シ精神明瞭トナリ、始メテ監置室ニ入ラレタルヲ知リタルヲ以テ、五月二十五日ニ輕快監置室ヲ出セリ。監置ノ場所。本宅ノ南開キノ軒ヨリ掛下ケテ造リ、外覆ハ板張ニテ爲シ間口七尺・奥行一間半・高サ約八尺ニ造リ、其中ニ監置室ヲ設ケタリ。南側ハ約一間餘ノ窓アリ、障子及ビ雨戸アリ。監置室ハ外覆ト密著シ、西

(號八十第)圖附 例三十二第



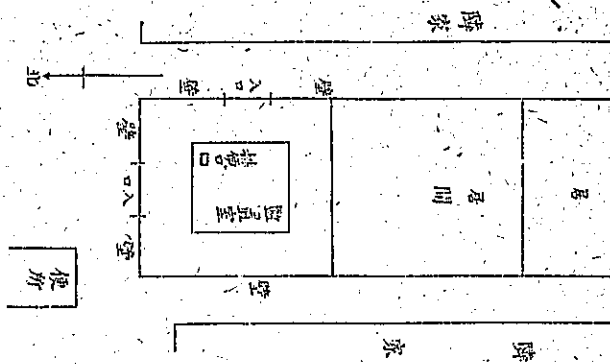
方入口ハ外覆ノ入口ヨリ約二尺餘ノ土間ヲ隔テ、造レリ。此處ノミ格子トナン(約二寸ノ角材)其他ヲ板張トナジ、天井及ビ牀モ板張トセリ。建ヲ敷キ其上ニ炭座ヲ敷キ蒲團ヲ置ク牀下ハ約一尺アリ。便所ハ東北隅ニアリ、洗面所ナシ。採光・換氣略々普通ニシテ、構造モ比較的良シ。家人ノ待遇。患者ハ現在監置室ヲ出テ、家人ト起居ヲ共ニセルモノナレドモ、入室中ハ毎朝洗面用ノ水ヲ與ヘ膳立シテ食事セシメ、月ニ一回位拭湯ヲナシ、運動ニ出スコトナシ。室内ハ患者自ラ毎日掃除セリト云フ。醫藥。醫師某ノ治療ヲ受ケ、服藥セリ。警察官ノ觀察。毎月二回。明治二十五年五月二十五日生。

第二十四例

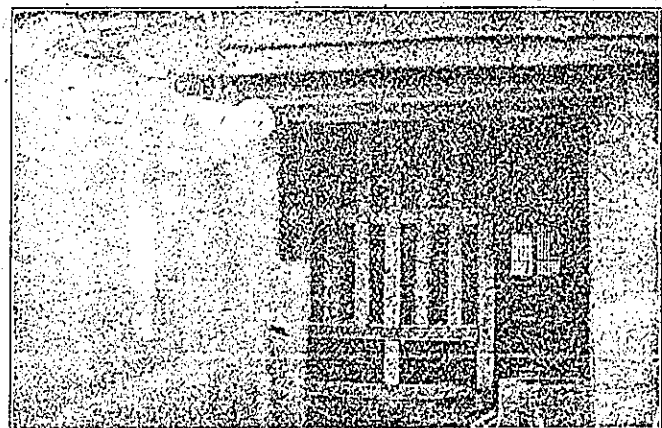
〇〇縣〇〇郡藤〇村〇字藤〇字北〇十〇番地。農。杉〇四〇。

明治二十五年五月二十五日生。

(號九十第)圖附 例四十二第



(號九十第)眞寫 例四十二第



監護義務者、實父、四〇衛〇。資産、豊
かならず。監護理由、外出徘徊、外
ヨリ物品ヲ持チ歸リシ爲メ。
監護ノ時日、當時假監置中。監置ノ
場所、居間續キノ一室内ニ監置室ヲ設ケ。
監置室、大サ二間半四方トス。牀下三尺。
高サ八尺アリ。三寸角ノ杉柱ヲ五寸間隔
ニ竝ベ天井ハ板張リトス。牀ハ板敷ニシ
テ一隅ニ便所口ヲ切ル。室内ノ採光及ビ換
氣ハ比較的佳良ナリ、掃除モ行キ届ケ
リ。病狀、裸體トナリテ拍子ヲトリ
ツ、室内ヲ徘徊シ、興奮著シク獨語モア
リ、感情爽快ナリ。醫藥、之ヲ受ケ
居ラズ。

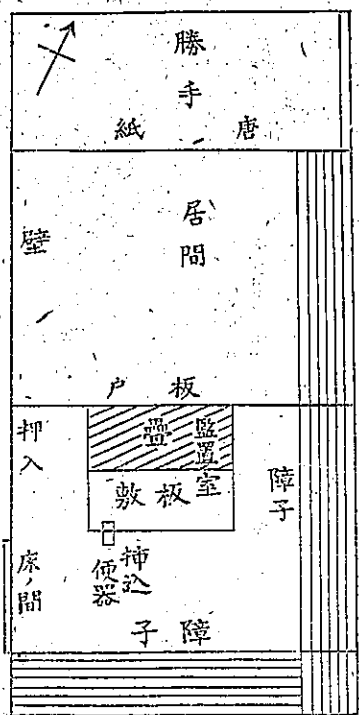
第二十五例 ○〇縣〇〇郡大〇

村大字〇大〇〇五〇地。農。佐〇〇〇一。

安政五年五月二十八日生。

監護義務者、妻、二〇。監置ノ理由、放火シタル
コトアルニヨル。監置開始ノ時日、明治三十八年五月
二十四日。監置ノ場所、居間ツツキノ座敷内ニ規
定ニ從ヒテ設ケラル。座敷ハ敷敷ニシテ東南及ビ東北
兩側ニ兩戸ノ備アリ。
監置室、廣サ一坪ニシテソノ三方ハ三寸角材ヲ用ヒテ

圖附 例五十二第
(號十二第)



四寸距離ハ格子ヲ作リテ之ヲ圍ミタリ。天井ハ板張トス、東北側ノ南寄ニ三尺四方ノ入口ヲ設ケ。一疊ノ疊ヲ敷キテ患者ハ其上ニ坐セリ。東南面ノ一隅
ニ挿込便器ヲ設ケタリ。資産、患者ハ下流ノ農民ニ屬シ資産ナク、醫藥ヲ興フルコトモナシ。病狀、患者ハ目下安靜ニシテ毫モ興奮セル微ナキモ
著シク作嘔痙攣ヲ呈シ、殆ド無音ノマ、靜坐セリ。家人ノ待遇、看護ハ主トシテ妻之ニ從フ。監置室ノ掃除モ能ク及ブダケノコトヲナシタルカ如シ。
時々入浴セシム。

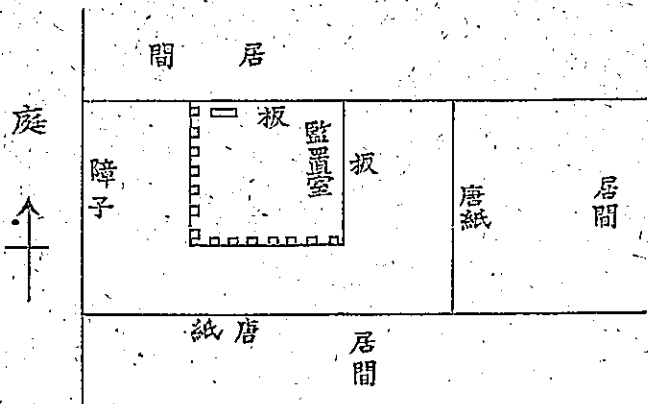
第二十六例

○〇縣〇〇郡荒〇村〇字〇宮〇村中〇百〇十八〇地。戸主、農。○原〇誠。

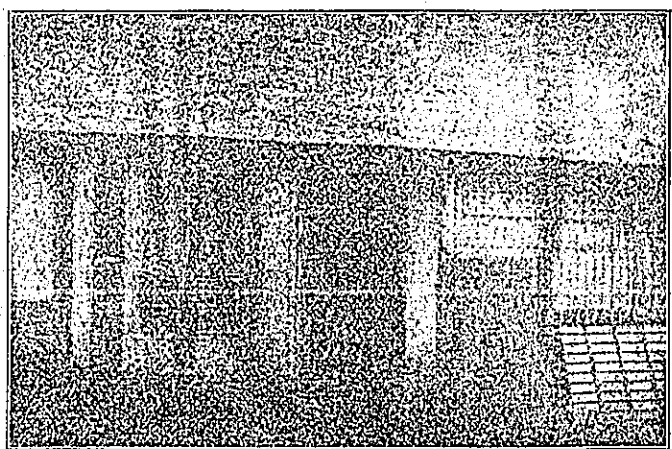
慶應元年九月六日生。

監護義務者、内縁ノ妻、○沼〇る。監置ノ理由、明治二十九年頃ヨリ精神ニ異常アリ、四十四年九月通行人ヲ棍棒ニテ毆打致死セシメタリ。

(號一十二第)圖附 例六十二第



(號十二第)眞寫 例六十二第



監置ノ時日、明治四十四年九月。
監置ノ場所、母屋ノ居間ノ一室ニ規
定ノ如キ監置室ヲ設ケ、其居間ハ二
間半ニ一間半アリテ、北向ナリ。
監置室、圓ノ如ク中央ニ造ラル。其
大サハ一坪半ナリ。高サ一間、室ノ
二方板張ニシテ、他ノ一方ハ二寸丸
太及ビ四寸角柱ヲ交互ニ竝ベ格子ト
ナス。北向一方ハ大部分板張ニシテ
中央ニ二尺ニ三尺ノ窓ヲ設ケ、ホー
トヲ横ニス、左隅ニ排便口アリ。天
井ハ板張ナリ、牀ハ板敷ニシテ疊ヲ
敷ク。掃除ナド行キ、扇キ一般ニ清
潔ナリ。家人ノ待遇、比較的其好ナ
リ。時々入浴セシム。醫藥、之ヲ受

第二十七例

○〇縣〇〇郡新〇町大字〇中〇浦村〇十三番地。平民。○正弟、農。井〇義〇。

明治十五年三月八日生。

ケズ。家族、患者ノ母及ビ兄二人共癡癡ナリ。本患者亦癡癡ナリ。